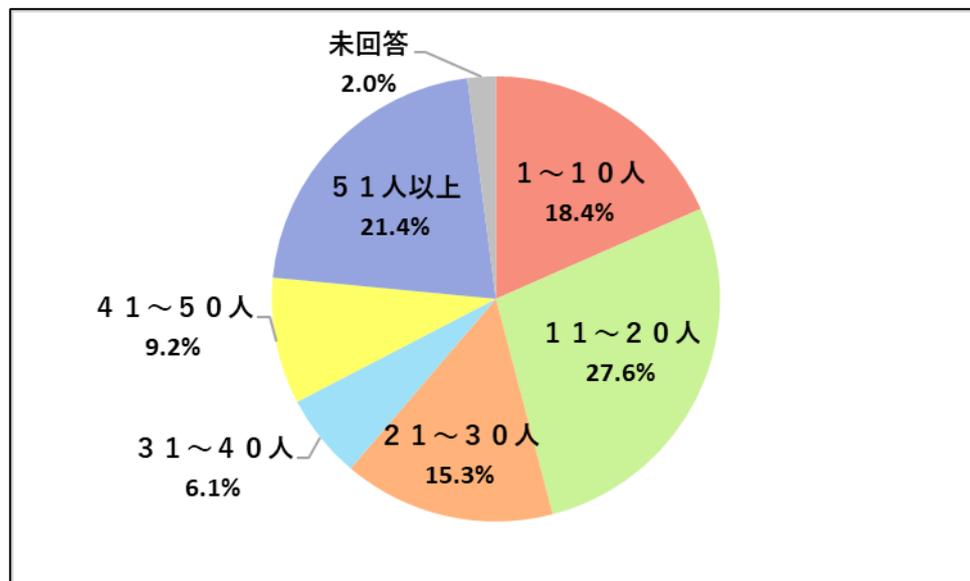


□団体用アンケート集計結果

1. 団体の活動について

問1 会員数は何人ですか。

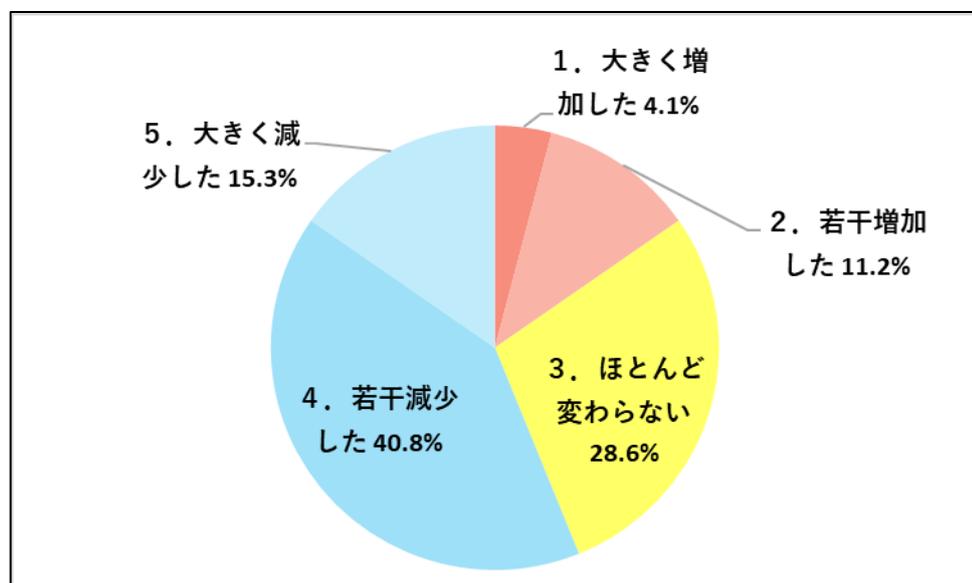


1団体当たりの最大人数:750名、最少人数:3名

問2 5年前と比較して、会員数はどのように変化しましたか。

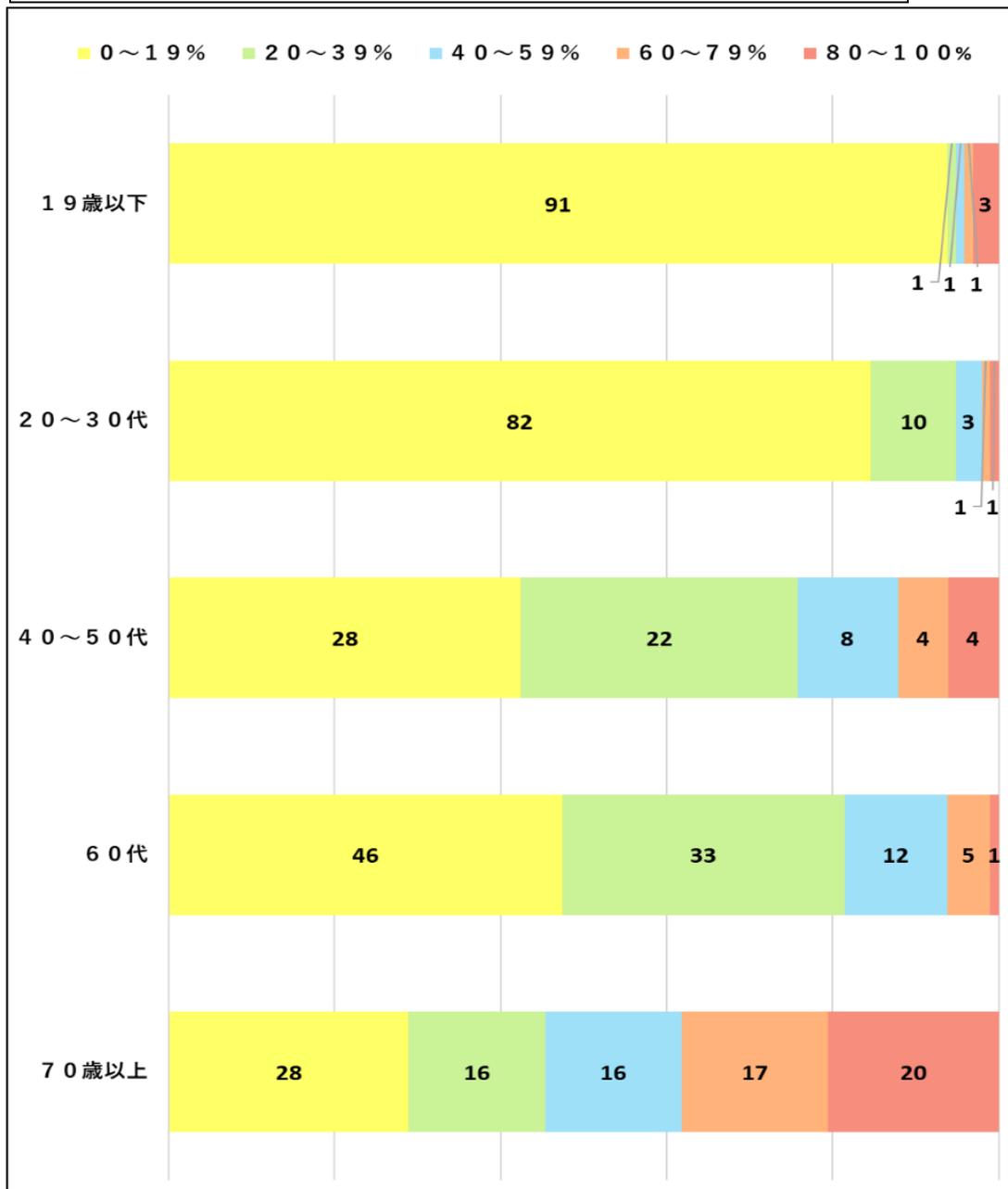
※5年以内に新たに設立された団体は設立時の会員数との比較をお願いします。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 大きく増加した | 4. 若干減少した |
| 2. 若干増加した | 5. 大きく減少した |
| 3. ほとんど変わらない | |



問3 会員の年齢構成の比率を教えてください。おおよそで構いません。

19歳以下	()%
20～30代	()%
40～50代	()%
60代	()%
70歳以上	()%



◆問3(年齢比率)の集計結果について

グラフは、年齢層別に、会員構成比率を示したものである。例えば、19歳以下の項目で見ると、黄色の部分には、19歳以下が0～19%と答えた団体が91団体あることを示している。

年齢層が上がっていくにつれ、「60～79%」「80～100%」の部分の比率が大きくなっていることから、多くの団体で高齢化が進んでいる様子がうかがえる。

問4 普段の練習や創作などは、どのように取り組んでいますか。

※新型コロナウイルス感染症の影響がない場合を想定してお答えください。

分野		取組
音楽	音楽全般	8月に音楽祭開催。活動を町内で行う団体、個人の発表の機会を提供
		12月にプロの演奏家を招いてコンサートの開催
		11月下旬、1月上旬 コンサートの開催 ほか
		毎週1回2時間半の練習している。新型コロナ感染予防対策を実施している
	音楽鑑賞	3カ月に1度程度、鑑賞会を設定
	フォークソング	月3~4回 土曜日地元のコミュニティセンター集会室で18:30~21:30頃まで演奏の練習。
	吹奏楽	週2~3回集まり、合奏練習。
		1週間に1回集まって合奏練習。
		週1回集まって練習、年1回演奏会を自主開催している。
		月2回から3回程度集まっての練習
		ビッグハート出雲文化サロンで週1回の練習。
	作詞、作曲	コンサート、イベント参加の度、その練習や新曲の編曲、演奏等を行う。月1~2回程度。
	合唱	各団体で週1回程度集まり練習している。
		毎年12月にビッグハート出雲にて合唱祭を開催し、市民のみなさんに対して発表している。
		第2、4の火曜日 13:00~15:00 練習しています。
		週に1回集まって合唱の練習。
		週2回、2時間集まって合唱練習。(演奏会が近い場合は月に1回4時間程度の練習を追加)
	大正琴	指導者の先生が各々教室を持ち、月に2回練習。
		教室ごとに、月2回集まって練習。年に2回発表会をする。
		2週間に1回(月2回)集まって練習。
邦楽邦舞	1週間に1回、各自の都合の良い日に来て1対1でお稽古。約50分。	
	琴3人、尺八1人の指導者が、月4回それぞれの教室を開催	
	日本舞踊の藤間流2人、花柳流2人が、月に4回教室を開催	
音楽	民謡等	3グループで部門別に月2回練習している。
		月2回の定例練習会を実施。全国大会(雲南市加茂町)に参加。
		昇段審査を受ける(唄、尺八、弦)。ボランティア活動(年数回)
		2週間に1回、集まって合唱の練習。
		安来節教室…週1回直江コミセン、出西コミセン、伊波野コミセン
		出雲追分教室…月2回上氷コミセン、久木コミセン
		関乃五本松節教室…月2回久木コミセン
		高齢者施設等慰問…月平均3回程度
		安来節:毎週1回(教室数9)。月1回支部全体練習会
		相撲甚句:月2回コミセンで練習。年間10回くらい行事参加や施設への慰問

		各自で作品を制作し、月に2回程集まって講評会をしている。
演劇		台本、演出は劇団内で創作している(演技部、演出部に分けて練習)
		週1回 19:30~21:00に練習。
		例会(演劇公演)を迎える2か月前から5~6回のミーティングを開いて公演準備、新入会員獲得にあたる。
		年間6回の例会。6グループに分けて会員の手で役割を担当している。
日本舞踊		団体稽古の人は月3回集まって稽古、年に数回の発表
		個人稽古の人はそれぞれ都合に合わせて稽古、1~2年に1回の発表
		以前から各々に活動している3つのグループが合同で活動する為に昨年初めに設立した倶楽部。グループごとに月2回程度の練習し、倶楽部としては、発表の前などに会合や合同練習をする予定。(初年度の昨年はコロナ感染症の関係で合同練習はできなかった。)
		月4回基本個人レッスン。年2回(夏・年末)講師会、勉強会。
		年1回会館にて発表会
		花柳流家元制: 専門部(指導者資格)名取部(家元より名前を許される)
		一般の3部門。入門した後に名取を目指しその後専門部へと進む。教室を開所して13年。名取を1人育成 他より名取編入。
		月4回を3会場に分けて(コロナのため)稽古
		週に1回程度、踊りの稽古。都合の悪い方は2週間に1回位にしている。
		各社中がそれぞれ練習。
伝統芸能	歌舞伎	毎年11月最終日曜日に定期公演を開催。8月~11月にかけて週2回稽古を行っている。不定期の催事へのゲスト出演及び出張公演が入った際には、1か月間週2回稽古を行っている。
		毎年8月~11月に、近隣の小学校へ出かけ、週1回こども歌舞伎の指導を行っている。
	神楽 盆踊り	10月20日の神社の例祭に関する奉納神楽、本神楽(夜神楽)。多伎町文化祭の神楽共演会に向けての練習。9月から週3回の練習。
		10月15日の秋祭りに合わせ、2か月前に練習開始(土日のをぞく)。
	田植囃	年1回の神社への奉納のための練習。1か月前から週2回。
		演舞は特に変わらないので、出演決定前2か月くらい週1回程度練習
	詩吟	月2回、支部(コミセン等の教室利用)毎に詩吟の教本に沿って、1名ずつ順次独吟を披露し合い、指導者から指導を受ける形で練習。
落語会主催	毎年1回の「桂吉弥落語会」事業を主催。	
和太鼓	1週間に1回1時間ほど練習。イベントがある時は特訓練習する。	
	会員は週に1回練習をしている。	

	ダンス	複数の団体が集まって発表を行うイベントなので、練習状況は各団体による。共通の状況としては、レッスンの臨時休講や生徒さんの休講、特に医療従事者や親の仕事の関係上子どもが休講を余儀なくされる。
		毎週土曜日 20:00～21:00 に練習
美術	美術全般	書道(A)グループによって週 1、2 週 1、月 1 回の頻度で集まって制作。
		書道(B)書道誌の課題を各自で制作。月 1 回の頻度で集まって研鑽・選考。
		洋画:会員各自が市内外の種々グループに属して制作。自己研鑽が殆ど。
		日本画:会員各自が所属する文化教室で研鑽。
		写真:会員各自で制作。年 2 回の情報交換会。年 1～2 回の撮影旅行。
		陶芸:毎月 2 班に分かれて制作、素焼き・色付け本焼きを実施。
		ハンド手芸:二つのグループが、各会場で月 1 回程度集まって、各自の課題作品を制作。
	彫塑:会員各自が自己研鑽。	
	絵画	各自で作品を制作し、年 1 度の出雲市美術展に出品・主催。
		一般出品作品(約 25 名)の審査・展示・講評を行っている。
		出雲文化伝承館主催の絵画ワークショップ(年 1 回)に協力し、指導・講評をしている。(本年度はコロナ禍で中止)
	日本画	会員のほとんどが、それぞれの教室に分かれて日本画を制作している。中央展である「日展」「日春展」に出品する人も相当数いる。
		県内…島根日本画協会展、県展への出品
		出雲市…市美展・出雲日本画協会展への出品
各教室の作品発表		
全体が集まった時、講師を招き、「日本が制作への想い」や技術の習得を図っている。		
大部分の人は月 2 回程集まって講評会に参加し研究を続けている。		
・月、1～2 回教室によって異なる。 ・斐川町内、他日本画教室で学び制作している。		
油絵	毎週木曜日制作	
美術	陶芸	3 班に分かれ、各自で制作し、月 1 回コミュニティセンターの窯場で作品の釉薬付けと焼成をしている。年に数回は窯場で、作品を制作しクラブ員の技術の向上に努めている。
	写真	作品を持ち寄り、講評
		毎月 1 回第 1 火曜日に集まり、各自が写真作品を 1 枚プリントし持ち寄り、品評会を行なっている。審議は 1 人 3 票ずつ気に入った作品に投票し票の多い順に順位付けする。 全国のコンテストなどの入賞作品などを見ながら、写真の撮影の仕方について勉強会を実施。

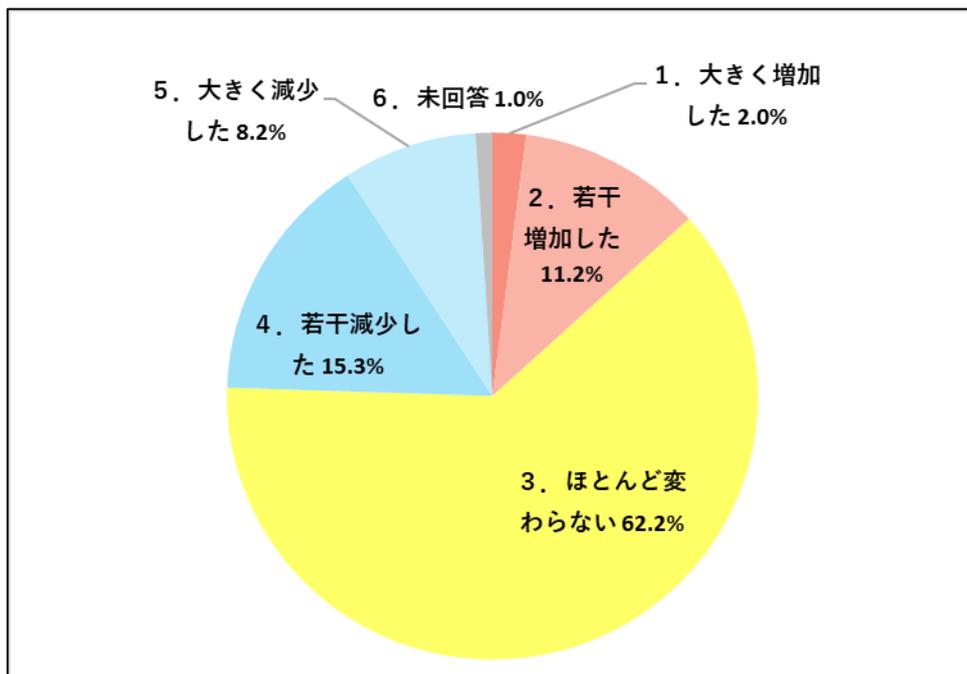
	パッチワーク	月1回、先生の指導を受けながら創作。
		月2回、教室に集まり、作品の制作。
	日本刺繍	月に2回程集まって作品を制作し、意見交換。
文学	川柳	月1回コミセンを会場に句会を開催。
		宿題と会員の中から選んだ選者が選をして被講している。県や出雲市の大会に参加して研鑽を積んでいる。
		例会として2か月に1回句会を開催
	短歌	各自作り、月1度集まり批評会をする。隔月、講師を招聘し指導を受ける。
		年1度、文化祭参加の折、町内中学校からの出詠参加。
		毎月1回、自詠短歌を提出、詠草集として配布。月1回に講師として先生を招聘、歌会を開催している。
		各自、日々題詠・自由題の創作。
		2か月に1回例会。
		2ヶ月に1回短歌の勉強会を開催している。年に1回開催される出雲短歌大会に投稿し3年連続で入賞者をだしたこともある。多伎町文化祭、多伎文化伝習館の作品展に出品している。勉強会で作った作品は山陰中央新報の私の作品欄に掲載してもらっている。
	俳句	各自で俳句を制作し、年4回句会を開く。
		句会毎に句会を実施している
	読書	月1回集まって読書(音読)
現在は「声に出して読みたい日本語(斎藤孝 No.1～No.6まで)」を月1回大きな声で音読しています。		
生活文化	茶道	団体としての活動…年に数回のお茶会、講習会、会議など。
		各個人としての活動…それぞれの先生が定期的にお稽古をしている。
		出雲文化伝承館の早春の茶会
		出雲大社大祭礼茶会
		一畑薬師茶会
	華道	各指導者による個人指導。稽古回数等はそれぞれの都合により活動している様子です。
		この団体が一堂に集まる合同練習等は不可能ですが、年1回の斐川文化祭には長年参加し、交流しています。
		各自で弟子にいけ花を指導
		市役所ロビーでいけ花を展示
		伝承館まつりでいけ花を展示
		それぞれの先生の教室で回数は違う。
		月に4回、2回、1回
		最近コロナ過で減ってきてはいるが、だいたい月2回、日を決めていけ花のけいこをしている。
		各自で作品を制作し、月1回～4回、花にふれる事で楽しんでいる。

	書道	年1回書展を開催(構成団体(各会派)においては夫々にそれにむけた練成会等を月数回行っている)
		会員のペースに合わせ、練習会を開催し、所属の書道誌に送っている。日の浅い方はそこまでいかない。
		月3回(第1～3週の水曜)夜8時から10時まで練習している。
		各自で練習。年2回作品展と批評会。
その他	囲碁	大会 2回/年、同好会 1回/月
	菊	各自で作品を作る。
		秋に向けて、仕立等毎月1回くらい、作品について講習会を開催。
		毎年7月頃から11月までに役員会を5回、総会を2回開催している。作品の展示場への搬出、搬入、水かけ等の作業に協力してもらっている。
	しめ縄作り等	3月 荒起し(堆肥散布)
		5月 田植え
		8月 稲刈 水田の作業、稲作と同様
		作業日 3月以降は月2回
		12月25日位 1年の作業を終わりとしています。 稲作の様子によりその都度変更があります。
	たたら遺跡	年1回 金屋子神社祭礼、保存会総会
	保存	年2回 草刈り、理事会の開催
		ガイド研修と実践
	ボランティア活動	ボランティア活動や夏祭りは期日を決めて、その活動の内容によって集まる日を決めて活動している。(当日のみの場合が多い)
		秋祭りは、本神楽と奉納神楽の年によって回数は異なるが、練習計画を立てて集まっている。(月1回集まる日を決めている年もあった)本番前はほぼ毎日練習をしている。
	絵手紙	月1回。講師の指導のもとに季節の話や作品の制作活動
	絵本、紙芝居	依頼された紙しばいの制作。
		各自で創作した作品の展示や、活用方法を模索しながら実行する。
	郷土史	各自の研究が主であり、会としては巡検等を企画する(季ごと不定期)。先項の個人研究でよいものがあれば、秋の文化祭のテーマとして、市民に呼びかけ討論会(シンポ等)を企画する。
	国際交流	会の性格上練習等なし
	子ども育成	活動開催前に、2、3回集まって準備の段取りをする。
出雲文化	月1回の講座、2種類	
	年1回のフォーラム	
出雲弁	普段の会話で出雲弁を使っている	
生涯学習	毎月1回(年間9回)で、生活・教養・時事・政治・経済・歴史・文化芸術・文学・健康などの分野から時宜にかなった内容を講座に盛り込んで開講している	
体操	月2回から3回定期的に教室を行っている	

問5 5年前と比較して、活動の頻度はどのように変化しましたか。

※5年以内に新たに設立された団体は設立時の活動の頻度との比較をお願いします。

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 大きく増加した | 4. 若干減少した |
| 2. 若干増加した | 5. 大きく減少した |
| 3. ほとんど変わらない | |



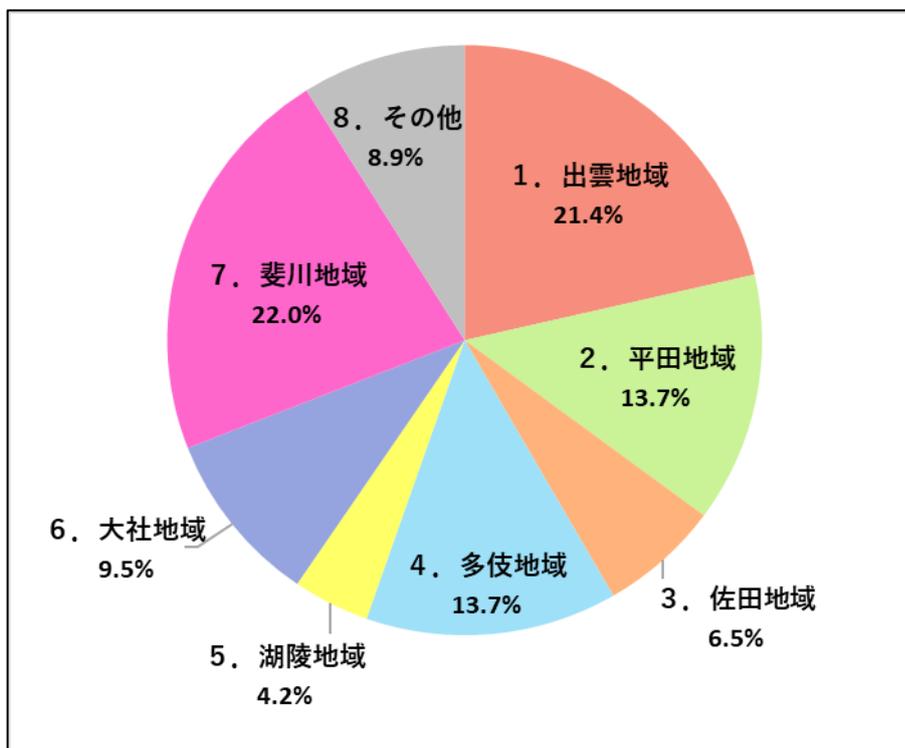
◆問5(活動頻度の変化)の集計結果について

活動の頻度の変化について、「3. ほとんど変わらない」割合は 62.2%で最も大きい。

「4. 若干減少した」・「5. 大きく減少した」団体の割合は、23.5%となった。

問6 「問4」で回答いただいた普段の練習や創作など、活動を行っている地域はどこですか。(複数回答可)

1. 出雲地域	5. 湖陵地域
2. 平田地域	6. 大社地域
3. 佐田地域	7. 斐川地域
4. 多伎地域	8. その他
	()



「8 その他」の回答

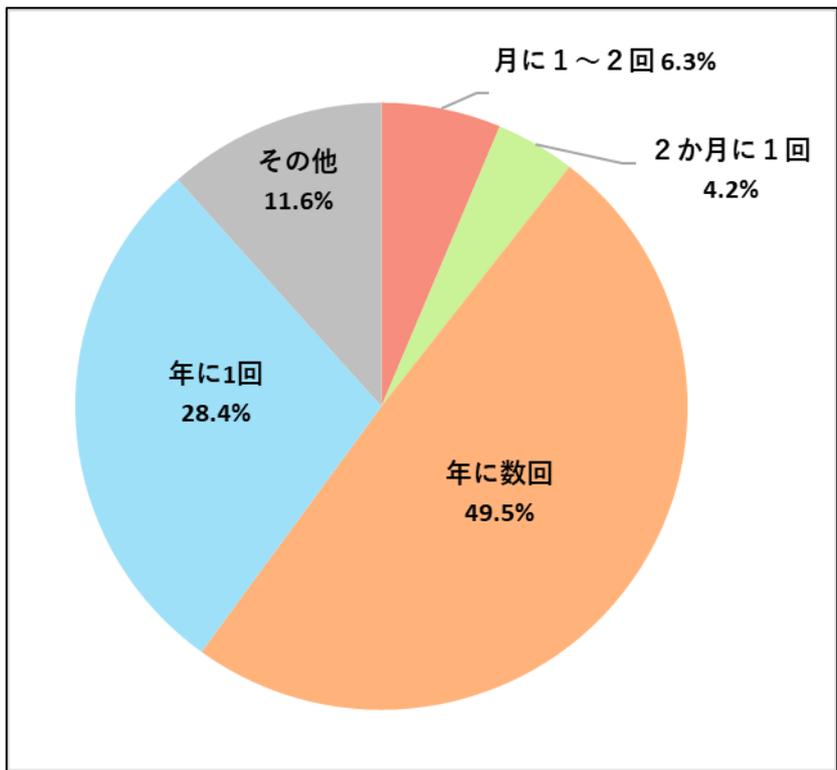
松江市／大田市／雲南市／米子市／鳥取県

◆問6(活動地域)の集計結果について

活動地域について、「7. 斐川地域」の割合が最も大きい。地域ごとの人口比率とは異なる結果となっている。

問7 成果の発表会や展示会等の実施頻度はどのくらいですか。

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 月に1～2回 | 4. 年に1回 |
| 2. 2か月に1回 | 5. その他 |
| 3. 年に数回 | () |



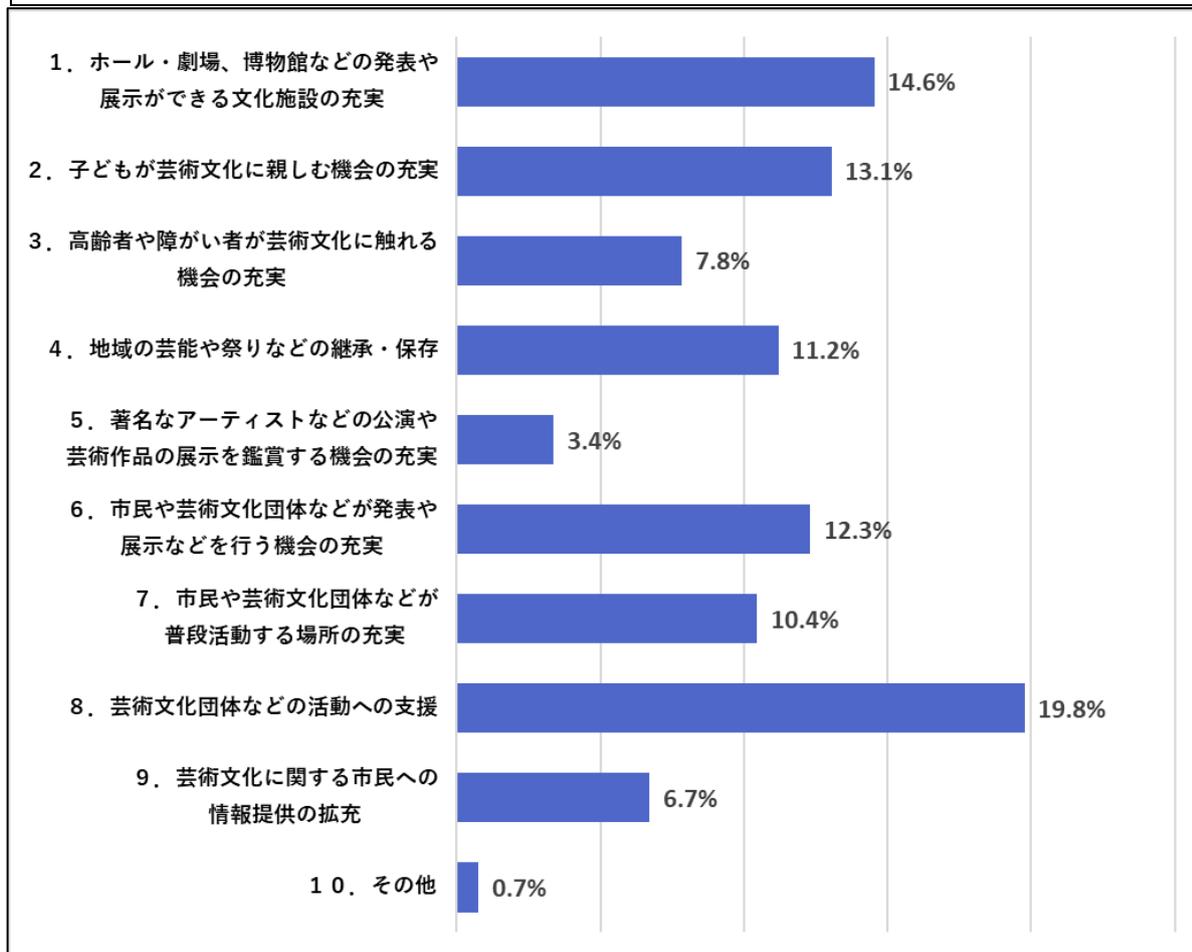
「5 その他」の回答

年 40 回くらい／昨年は年間 150 回程度。今年はコロナで 40 回程度／2、3 年に 1 回／ほとんどない／今年はコロナのため無し

問8 本市の芸術文化活動を充実させるためには、特に何が必要だと思いますか。

(回答は3つまで)

1. ホール・劇場、博物館などの発表や展示ができる文化施設の充実
2. 子どもが芸術文化に親しむ機会の充実
3. 高齢者や障がい者が芸術文化に触れる機会の充実
4. 地域の芸能や祭りなどの継承・保存
5. 著名なアーティストなどの公演や芸術作品の展示を鑑賞する機会の充実
6. 市民や芸術文化団体などが発表や展示などを行う機会の充実
7. 市民や芸術文化団体などが普段活動する場所の充実
8. 芸術文化団体などの活動への支援
9. 芸術文化に関する市民への情報提供の拡充
10. その他()

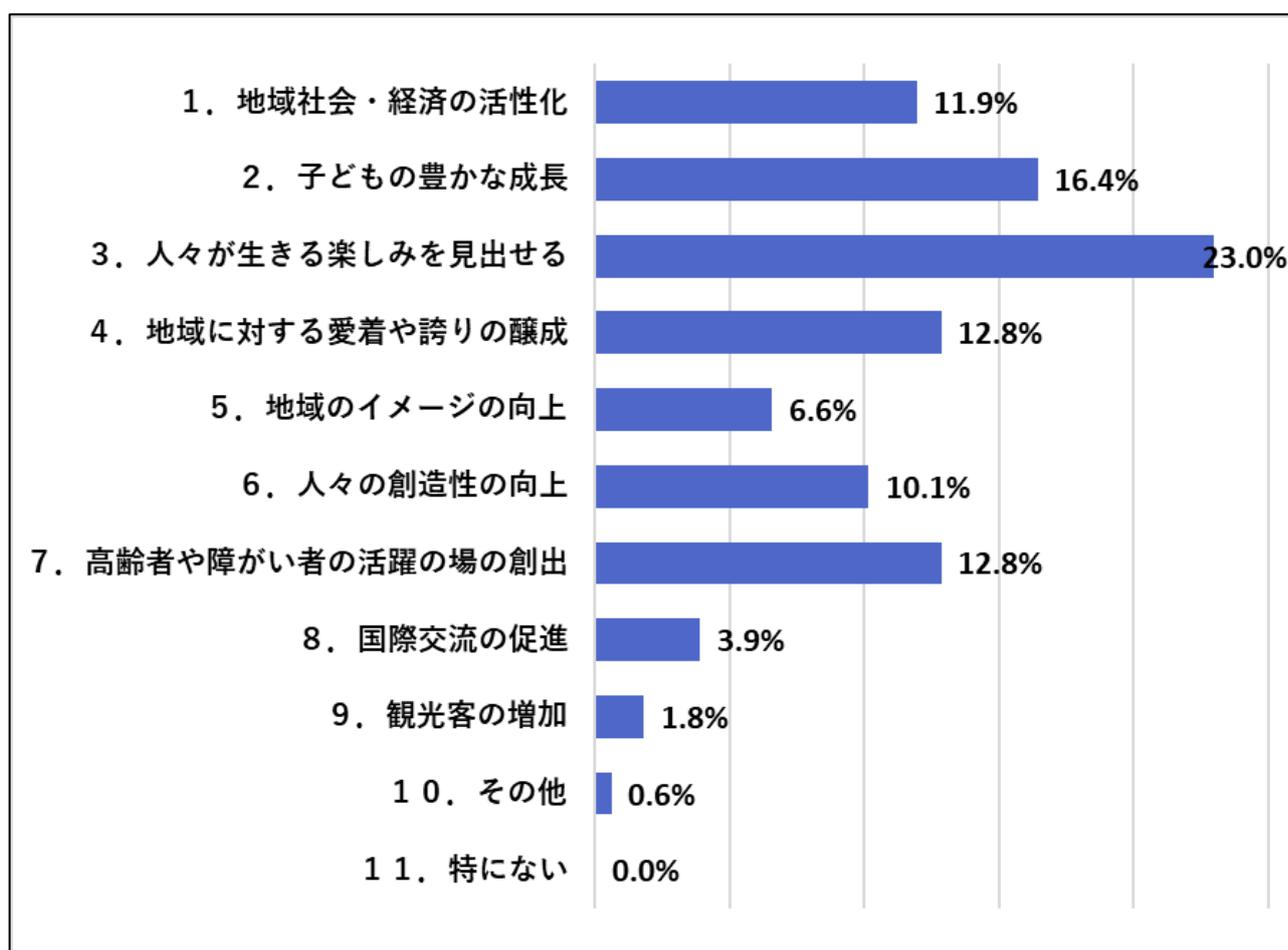


「10 その他」の回答

施設の使用料の値下げ又は無料化

問9 芸術文化の振興が社会にもたらす効果として期待することは何ですか。(複数回答可)

- | | |
|-------------------|---------------------|
| 1. 地域社会・経済の活性化 | 7. 高齢者や障がい者の活躍の場の創出 |
| 2. 子どもの豊かな成長 | 8. 国際交流の促進 |
| 3. 人々が生きる楽しみを見出せる | 9. 観光客の増加 |
| 4. 地域に対する愛着や誇りの醸成 | 10. その他 |
| 5. 地域のイメージの向上 |) |
| 6. 人々の創造性の向上 | |



「10 その他」の回答

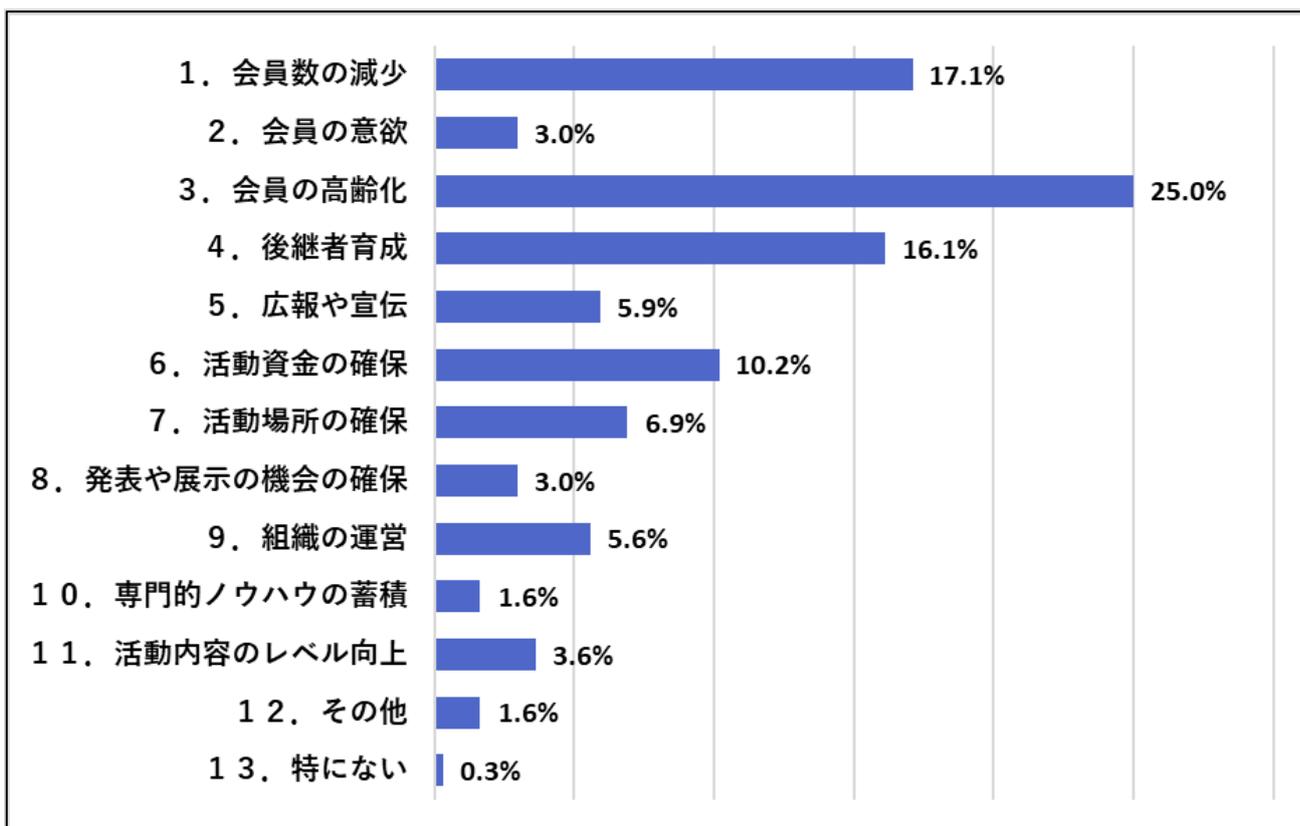
外国の方々との合同発表、交流の場。国際交流フェスタ等／ひとりひとりの魅力アップ、存在価値の醸成のため

2. 団体の課題について

問 10 貴団体が抱えている課題は何ですか。(複数回答可)

※新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に生じている課題は除きます。

1. 会員数の減少	8. 発表や展示の機会の確保
2. 会員の意欲	9. 組織の運営
3. 会員の高齢化	10. 専門的ノウハウの蓄積
4. 後継者育成	11. 活動内容のレベル向上
5. 広報や宣伝	12. その他
6. 活動資金の確保)
7. 活動場所の確保	



「12 その他」の回答

新しい(若い)人が入らない／人材確保／子どもの学校の部活動との両立が困難／教室を開催する会場費の負担が大きい

◆問 10(団体が抱えている課題)の集計結果について

課題で最も割合が大きいのは、「3. 会員の高齢化」、次いで「1. 会員数の減少」であった。

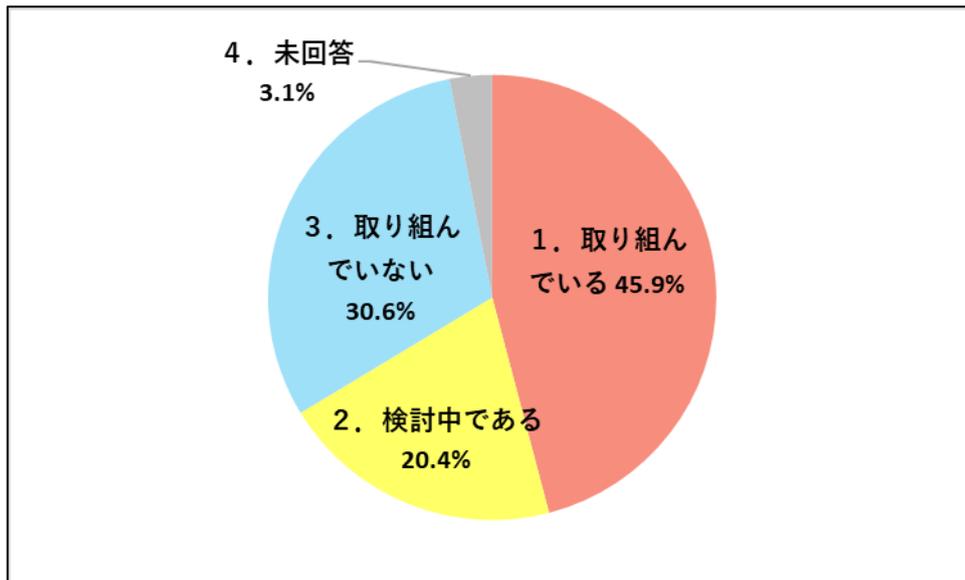
《問 10 の具体的な記入》

興味、関心
若い年齢層になかなか興味を持ってもらえない。
会員で会費も納めているが、活動に参加しない。
日本画は身の回りに沢山ありますが、県内の学校ではどこも教えていません。技術を伝えるために少人数ずつでの講習会を続けています。
施設
現在の使用施設(平田コミセン)が2階に広い部屋があるため、高齢者は非常に苦渋している。早く立て替えが実現してほしい。
展示・発表する施設が欲しい。市美展の作品展を大社の縁結び館で行っているが、施設を知らない人も多く、出雲の中心部ならまだしも「遠すぎる」という人が多い。
施設利用料金値上げのため、練習回数を減らさざるを得なくなった
常時使用している斐川文化会館視聴覚室の空調が壊れていて、夏季の開催ができない(音漏を防ぐため、窓を開けられない)
練習会場(大社小)の施設利用料の増加による運営費の悪化
うらら館の会場 600 人の客席はちょうど良いが、日本舞踊の場合、所作台がないことは残念。
ークラスの参加人数は少なくとも、大作を描くため広い会場が必要で会場費が高くなる
会員の減少
会員を増やそうとしても、短歌の様な難しいものは自分には全く解らないからという。理解しようという気がない。
いくら募集しても会員が増えない。
本会も平成のころは 200 名を超える大世帯でした。兄弟の会であった民芸同好会は 250 超えていたが、現在消滅。その総括もできず今日まで来ている。郷土の自然や文化は学校教育との結びつきも多い。学校も少なくなり、学校の関心も少なくなり、郷土への意識の希薄を強く感じている。
会員の高齢化が進む中、会員募集チラシなど配布はしているが入会者が少ないです。
会員数の減少、高齢化のため、組織の運営等に影響を及ぼしている。特に役員のなり手が少ない。
その他
子ども達の入会は少ないが、退会が小学校卒業まで殆どないので活動は続けられている。しかし中学に入ると部活動との両立が難しく、続けたいと思っている子ども達も実際にはやめざるを得ない。日本の伝統芸能に興味を持っている貴重な存在なのに大変もったいない。他の習い事でも同じ様な事をききます。部活のあり方が子ども達の選択肢を狭めていると思います。せめて「ギリギリまで予定がわからない部活のあり方」を変えてほしいと思います。縦割りはあると思いますがこんな意見もあると学校教育？教育委員会？の方へお知らせいただきたいと思います。
私自身が高齢となり、身体と精神のバランスをとることの大事さを痛感しています。最近、健康志向にわざわざお金を使っている若者や高齢者が多いが、子どもの頃から芸術文化に触れる体験の積み重ねが、健康寿命と関係があるのでは？と検証を考えながら取り組んでいます。
演奏会を開催するための資金繰り
人生 100 年時代を迎え、一人一趣味を持つことは人と人との交流を図り、より楽しい老後が送れると思います。どこの地域でどんなことをやっているのか広報で知らせることも大切だと思います。

3. 次世代育成について

問 11 貴団体として後継者・次世代(子ども、若い世代)育成のための活動に取り組んでいますか。

- | | |
|------------|-------------|
| 1. 取り組んでいる | 3. 取り組んでいない |
| 2. 検討中である | |



問 12 「問 11」で『1. 取り組んでいる・2. 検討中である』と回答された方にお聞きします。

幼稚園～高校生対象に指導・合同発表			
音楽	吹奏楽	年に 1 回、母校生徒(中学校)と連携し、合同で演奏会を開催。	現役生徒と OB・OG の交流の場が広がり、指導により生徒たちのレベル向上に大いに役立っている。
		中学生への演奏指導。	演奏会へ来場してもらえる。 団体の存在を知ってもらえる。
		年に数回、不定期ではあるが、小中高大学等へ出向き指導・合同練習。	社会へ出ても音楽を趣味として楽しめるという認識ができる。音楽を続けていく道しるべとなる。
	合唱	年に 1 回、小中学校の合唱部と連携して演奏会を開催。中学校の合唱祭の優勝クラスも演奏会に出演。	小中学校と連携して演奏会を開催する事によって、広く地域の方々に演奏会を聴きにきてもらっていると思う。私達は地域に根付き、合唱の楽しさ素晴らしさを地域の方々と分かち合える、身近な合唱団であると思う。
民謡	月 2 回、小学生を対象に指導。	地域の行事、イベント等で発表している。	
日本舞踊		月に3回、小学生～高校生に日本舞踊の指導。	子ども達が着物を着る事や長唄等の伝統芸能に触れることが当たり前になって、その上、舞踊の稽古を通し正座やおじぎの仕方、立居振舞い等、着物でのしぐさを学ぶことが出来ている。また、緊張する舞台を経験する度に、子ども達の表情がしと頼もしくなっていくのを感じる。保護者共々、学年や学区を越えた繋がりが出来ている。中には子ども日本舞踊の全国コンクールで最優秀を取った子どもも輩出。
		小学校にクラブ活動としてボランティアで踊りを教えに行っている(10 年位前から月に 1 回程度)。別に子ども達 2、3 人にも教えている。年に 1 回発表の場を設けている。	年度末に、子どもたちからお礼の手紙等をもらうと、また来年もやろうという気持ちになる。子ども達は勉強と別の世界なので、ちがった意味でイキイキとしていて楽しい。
		小中学生を積極的に入会するようにしている。	荒木幼稚園では年長の伝統になっている。親子の絆が強い。
		幼稚園、中学校へ指導に行っている。	大社中で「出雲阿國」の授業を指導している。

	歌舞伎	毎年行う定期公演に、小学生や幼児を小役として出演させている。毎年町内の小学校の学習活動として、生徒に歌舞伎を指導し、学習発表会や定期公演で発表している。	伝統芸能への関心を高め、豊かな心や感性、創造性を育むことができた。 児童・生徒、指導者、学校職員、保護者が事業を理解し、全日程を通して積極的に参加支援し、コミュニケーションの活性化や学校行事として、芸術文化における行事が定着した。 児童・生徒の個性や能力を発見し、個々生徒を理解する機会となり、数人で一つの目的を達成することのチームワークの大切さと成功した時の達成感を味わうことが出来た。
伝統芸能	和太鼓	①週に1回、ジュニア(小学生以下)への和太鼓の指導。年に5回程度の公演。(会員35人、指導者6人) ②年に15回程度、須佐小学校への和太鼓の指導を行っている。小学校のビッグフェスタで太鼓演奏を披露。 ③年に15回程度、窪田小学校への和太鼓の指導。小学校のふれあいフェスティバルで太鼓演奏を披露。近くの福祉施設「やまゆり苑」に訪問しボランティア演奏。 ④市内、町内の保育園への和太鼓の貸出・指導を行っている。 ⑤年に1回、佐田中学校への和太鼓の指導。	すべての活動が長年に渡り定着しており、町内を中心に地域文化の継承・青少年の健全育成に役立っている。また、故郷を想う・地域を愛する心が宿っている。ジュニアを経験した子どもたちが、大人になって「さだ須佐太鼓」に入会する会員が少しずつ出てきた。
	神楽	秋祭りに向けて、9月と10月に小学生への神楽の指導。 毎年、神楽開催に向けて園児、小学生、中学生への指導。	小学生時代に神楽の経験をした子が、社会人になってから本会に加入している。 今年度、青少年育成等功労表彰(青少年育成者の部 団体)を受けた
美術	洋画 日本画 植物画 写真 工芸 彫塑	協会として、年に1回、地元の高校や中学校と連携した展覧会を実施し、絵画、デザイン、彫塑、工芸、写真の作品を展示する。 陶芸部では、講師の指導により技術継承を図っている。 クラフトバンド手芸部では、年3回講座を開催し、同好者を募っている。	小中学生の作品の鑑賞の機会は、美協の会員にとってよい刺激となっている。また、高校や中学校の美術教員の関心を高めている。展覧会見学者の中に中高生の保護者も見られ、若年層の関心を集めるのによいと思う。コミセン等の施設をつかった講座開設は、同好者募集や拡大を図るためのよい手段である。現に会員になる人も出てきた。

		彫塑部門では、県文化連の次世代育成事業に参加して年 1 回の彫塑の講習会に講師として協力。	
	陶芸	年 1 回(夏休み)子ども陶芸教室を開催している。	毎年継続できている。特に目に見えての成果はわからない。
生活文化	華道	月 3 回地域のコミセンで小学生対象の教室を開催。中学校では年 1 回。以前はクラブ活動として、指導。	お花(池坊)お茶(裏千家)で、ともに団体系元の指導をする学校華道・学校茶道として活動していますが、コミセンの事情等で思うように活動が出来ず残念。
		月に1回、小学校で華道の指導。	いけばなが好きな子もいるようだ。
		伝承館で子ども教室を開催。小学校・高校で教室を開催。	卒業後もやってほしいが難しい。
	書道	小学生の書初め指導に協力。	
		年 1 回、町内小学校での書初指導	技能の向上、学校賞受賞、ふれあいによる指導者のやりがい、達成感
	茶道	各学校での指導をしている。小学校を対象にした教室を開いている。ただ依頼のある学校へしか行かないので、人数は限られる。もっと広く行政と連携しながら学校教育に取り組んでいけると良いと思う。	書初めの指導に協力したことは、小学校教師や児童に好評
		年 1 回 子ども教室、親子教室	
学校(中高の部活動)			

その他 子ども対象			
音楽	吹奏楽	団員の子ども、学校吹奏楽部員と一緒に練習することで団員と一緒に音楽への理解を高めている。	定期演奏会を始めとする各種イベントへの参加。 将来的に当団への入団を促す。
	合唱	小中学生、高校生が参加する合唱のイベントに積極的に参加することにより、大人でも芸術文化の参加の場があること、その楽しさを見せるようにしている。	活動に関心をもってもらえる機会が増えた。
	音楽・人形劇	年一回のコンサートへ子どもの発表の場を提供	出演者同士の親睦と融和の向上
伝統芸	落語会主催	地元の小中学生を落語会に招待している。	落語に関心を持つ小中学生が少ない。
文学	短歌	月1回の短歌会、文化祭参加(出詠)、小冊子作成し諸機関に配布	くわしくはわからない
		年1回、文化祭の折、中学生の出詠歌を展示し、更に冊子を作成し配布している。	
		出詠歌を町図書館に展示する。	
生活文化	書道	久村と田儀で、各人子どもたちや大人に指導している。	

コミセン関係			
音楽	大正琴	施設等でのボランティア演奏、祭り等での参加、各コミセンでの発表会、中学生へのボランティア指導、発表会	
	民謡等	コミセンにて週1回練習・指導を行っている。	文化による地域の活性
伝統芸	神楽	各社中練習は色々。窪田神楽は月2~3回公民館にて練習している。	文化による地域の活性
美術	日本画	年に1回、出雲市立ひかわ図書館で(葉づくり)のワークショップを開催しています。8人くらいで準備をし、指導。 一日4時間の中に常時参加で製作時間も各自まちまち。 どなたでも参加できますが、会場が図書館ということもあり幼児~若い世代の参加が多くみられる。	参加者は数多くある日本画材を手にとって興味深そうに見ておられる。日本画材を使つての葉作りは出来上がった葉を見て満足そうな表情をして各自持ち帰る。 日本画の特性上など様々な条件から、即日本画に移行というわけにはならないが、日本画独自の画材や描き方を知っていただき、日本画に興味を持っていただくきっかけになっていると思う。 今後も工夫を凝らしたワークショップを企画していきたい。

	写真	<p>年に1回 カメラ女子写真コンテストを実施し、県内の女性限定としているが幅広く作品を集め、展示と表彰式を行っている。また、会員の作品の展示も定期的に行っている。</p> <p>斐川の豪農屋敷への展示は毎月行っているほか、荒神谷博物館への展示、コミセン文化祭、斐川文化祭への展示、出雲市総合美術展への展示など毎年実施することで写真文化に触れる機会を提供している。</p> <p>不定期に撮影会を実施している。</p>	<p>カメラ女子写真コンテストは 非常に多くの方から応募を頂き、展示や表彰式や講評を行うことで写真作品撮影への意欲や動機付けを積極的に行っている。</p> <p>興味を持たれた方はクラブ活動に見学に来てもらう様に勧めている。</p> <p>また、各所への展示もフォトクラブひまわりの活動状況や作品レベルといったものを周知することに繋がっている。</p> <p>撮影会では実際に写真撮影への関心が高まり、楽しさや作品の奥深さなどが伝わる場となっている。</p>
その他	菊	<p>年 5～6 回程度、後継者の育成をめざして講習会を実施している</p>	<p>会員への加入を呼びかけている</p>
		<p>コミセンでの講習会</p>	

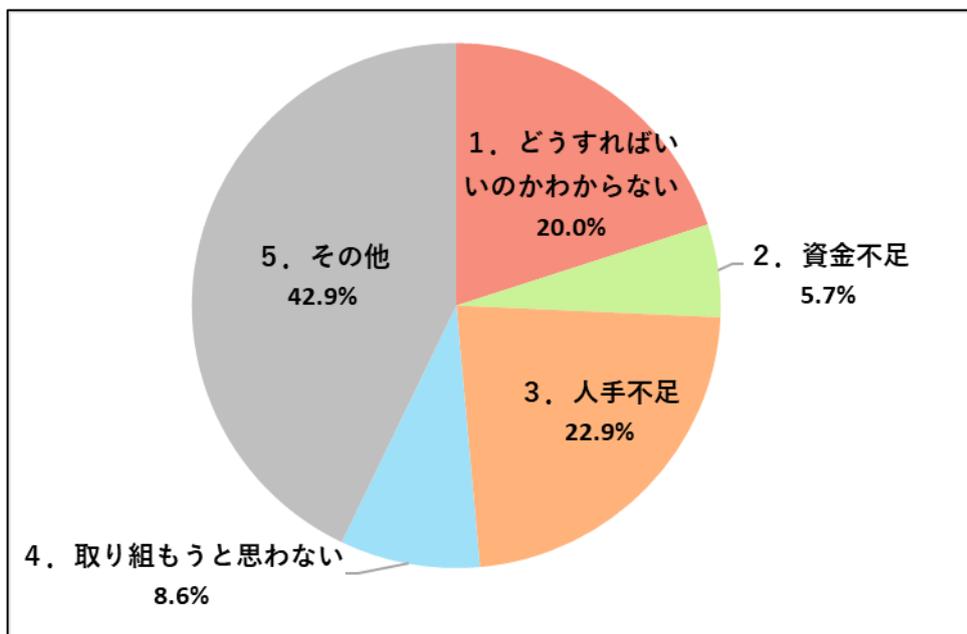
会員募集			
音楽	大正琴	<p>各地域(毎年地域を決めて)で研修会を開き、会員を募る。</p>	<p>習ってみようか…と入会される。</p>
	民謡	<p>出雲追分全国優勝大会参加、斐川町文化祭参加、各種ボランティア参加、斐川町民謡協会発表会実施。</p> <p>性別、年齢を問わず、会員を「チラシ」「親戚」「友達」などから情報を得て、会員を募集。</p>	<p>思うようにはいっていない現況。民謡(追分)はここ数年成果なし。入会する人につながらず。</p>
美術	パッチワーク	<p>展示会の際に、体験を行い、内容を知ってもらう</p>	
文学	俳句	<p>俳句会にさそっている。</p>	<p>句会の時間が子どもの学校の日時と重なるため、なかなかうまくいかない。</p>

以前の取組			
美術	日本画	<p>かつて高校美術部 or 市内 4 校中学美術部生に講習会を開いた。</p> <p>日本画展のおり、美術部生の作品展示をした</p>	<p>資金不足のため近年は中止した</p>
		<p>一昨年まで出雲市内の中学生・高校生の美術部員さんを対象に、絵画の実技指導をし、合同で作品展をしていた。</p>	<p>画材の準備や展示施設の借上げ費用など、すべてこちらの負担となり、その割に観客動員数も増えず、打ち切りとなった。</p>

問 13 「問 11」で『3. 取り組んでいない』と回答された方にお聞きします。

その理由を教えてください。

1. どうすればいいのかわからない	4. 取り組もうと思わない
2. 資金不足	5. その他
3. 人手不足	



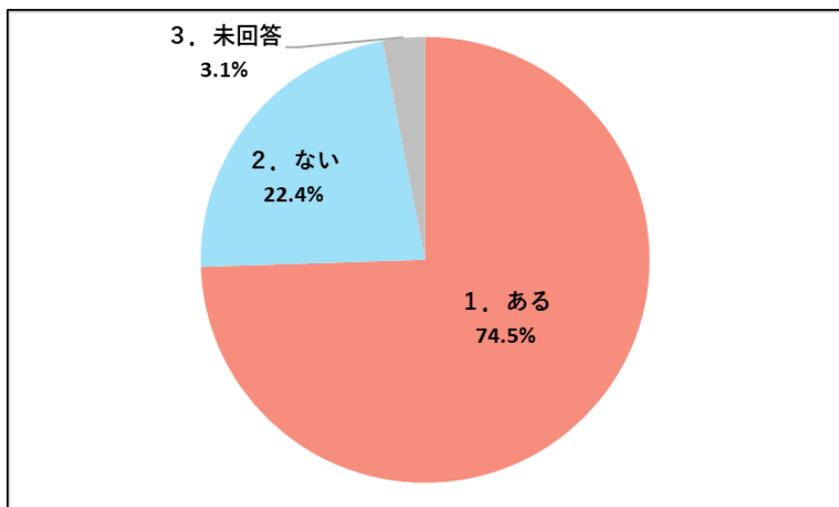
「5 その他」の回答

金銭的な面もあり、若い人の勧誘が難しい／学校の部活に依存／現状では余力がない／2自治会での運営であり、人口減少・高齢化に伴い、会員募集が難しい／高齢で意欲が持てない／勧誘が功を奏さない／私自身が80代となり、生徒さんも50代でおつとめの為、ゆずる人が無い／高齢化社会の中で趣味の会の門戸の一環。新規会員への声掛けは行っている／アナログレコードの面白さがわかる人が対象。もしおられれば歓迎／出雲市では音楽は取り組んでおられるが、演劇に対する取り組みがない。個人で何かできるものではないため／若者に関心がないこと／時間不足

4. 他団体との交流について

問 14 同じ分野の他団体との交流はありますか。(市内、市外、県外など)

1. ある。	2. ない
--------	-------

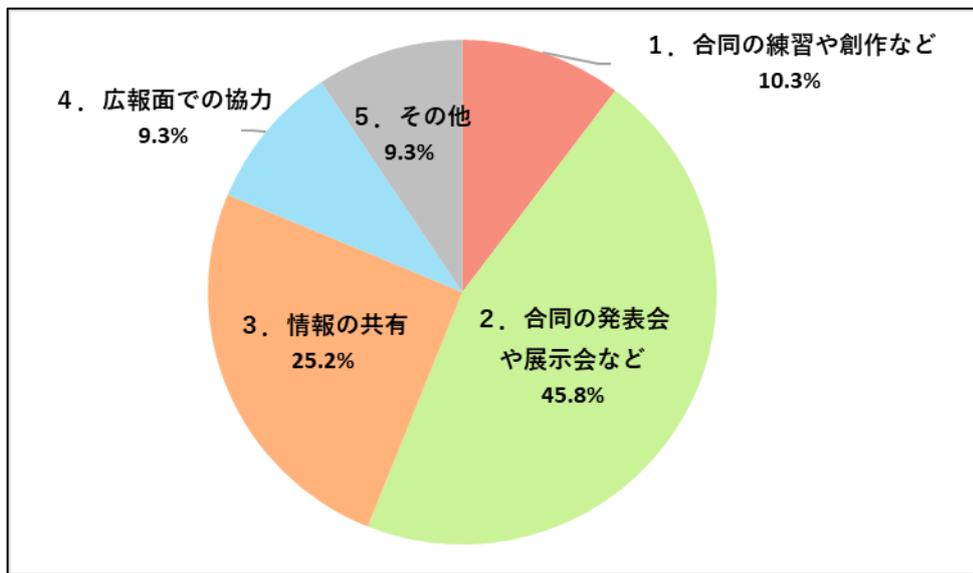


問 15 「問 14」で『1. ある』と回答された方にお聞きします。

同じ分野の他団体とどのような交流をしていますか。

※新型コロナウイルス感染症の影響がない場合を想定してお答えください。

1. 合同の練習や創作など	4. 広報面での協力
2. 合同の発表会や展示会など	5. その他
3. 情報の共有	



「5. その他」の回答

山陰地区大会／協会全員が他団体の交流はないが、個人としてはいろいろな所と交流がある／研修会、稽古、練習、審査会、予選会／講座の共催／大田市内の社中との交流、山陰地区会との交流／大阪のプロの人形師との交流で操作方法等の研修会／個人参加。プロ、アマ問わず／研究調査で協力を求める時には大変助けていただく。近年、歴史資料は図書館でみる事ができるので／講師の依頼、派遣／中国 5 県のブロックで同一作品を例会にしている。月 1 回のブロック会議を持っている

《問 15 の具体的な記入》

1. 合同の練習や創作など
選者をお願いしたり、されたり。
他地域のたたら遺跡ガイドの見学などがある。
他劇団への客演。TV、映画への参加(オファーがあれば)
他地域(松江、安来、雲南)の方とスケッチ会を実施しています。交流の会となり、情報交換の場となり、つながりが強くなります。役員会年 4 回、情報誌の発行年 4 回
2. 合同の発表会や展示会など
地域の祭りに一緒に参加している。
文化祭等には各社中が共同で参加。
各団体の周年事業に参加している。県太鼓連盟に所属している。
共通の公募展へ出展する、中央より講師をまねく
自主的に実行委員会を作り、中央の舞踊家を招き共演。 島根県邦舞連盟に所属、合同公演、講習会等出演
隣市の松笠歌舞伎の指導と公演時の支援を行っている。他県における国民文化祭等での交流公演
合同茶会を開催。
年 1 回広域歌会開催(出雲、大社、斐川)。秋の文化祭の行事の一環として、平田短歌会大会を開催。 出雲・大社・斐川の歌会員に声がけして歌を募集し当時参加してもらう。
他町の同好との対局、JA の大会
4 年に 1 度、出雲市内の一般吹奏楽団で合同演奏会を催している。
2 年に 1 回しまねふれあいコンサートを行っている。
ひかわ寿昌クラブ連合会との共催事業。
多伎町文化祭での神楽共演会。
池坊・小原流合同いけばな展の開催。
年に何回かの研究会などを実施。
ビッグハート出雲での「音と手仕事展」の参加。各種団体行事での招待演奏等
斐川町文化祭に共同展示を実施。

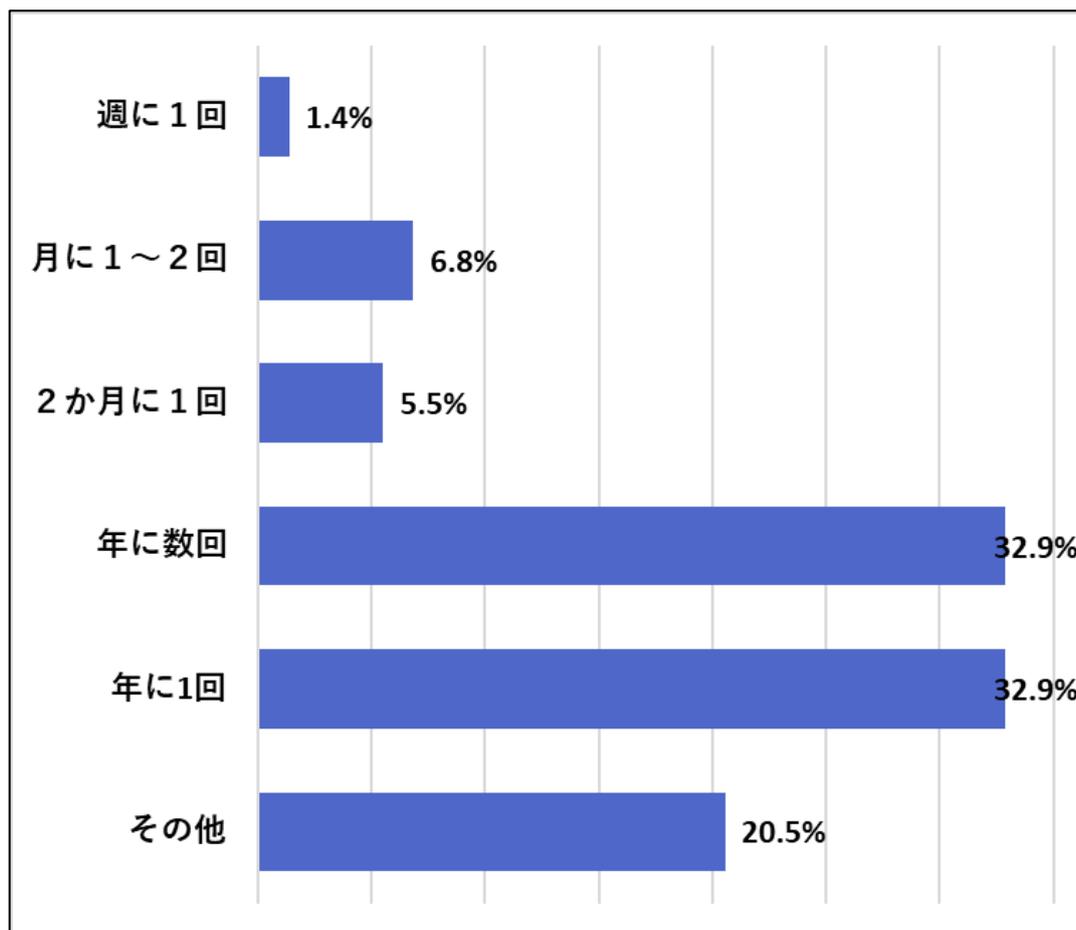
県外の支部発表会の応援出演等
花展に共に参加。施設に毎週会員持ち回りでいけ花を展示しています。
島根県でも文芸作品の公募を毎年行って表彰しており、会員の入選も多数出している。出雲市大会も開催され、県下の交流が日常的にある。

3. 情報の共有
講師が複数の短歌会を指導されているので情報が共有できる。
年1回連絡会を開催。年を通してイベントのチラシを他団体へ配布する。
コンサート等の相互の情報交換

5. その他
斐川日本画協会の会員は出雲日本画協会にも属しています。
清吟堂吟友会は松山市本部で会員総数約1800名。うち過半数の1000名が島根県の会員、その内200名が出雲ブロック。同一団体ながら市内外、県外会員との合同発表会がある。
斐川日本画協会は、出雲日本画協会に属し、出雲日本画協会は島根日本画協会に属している。

(問 15 続き)その頻度はどのくらいですか。

1. 週に1回	4. 年に数回
2. 月に1~2回	5. 年に1回
3. 2か月に1回	6. その他
	()



「6. その他」の回答

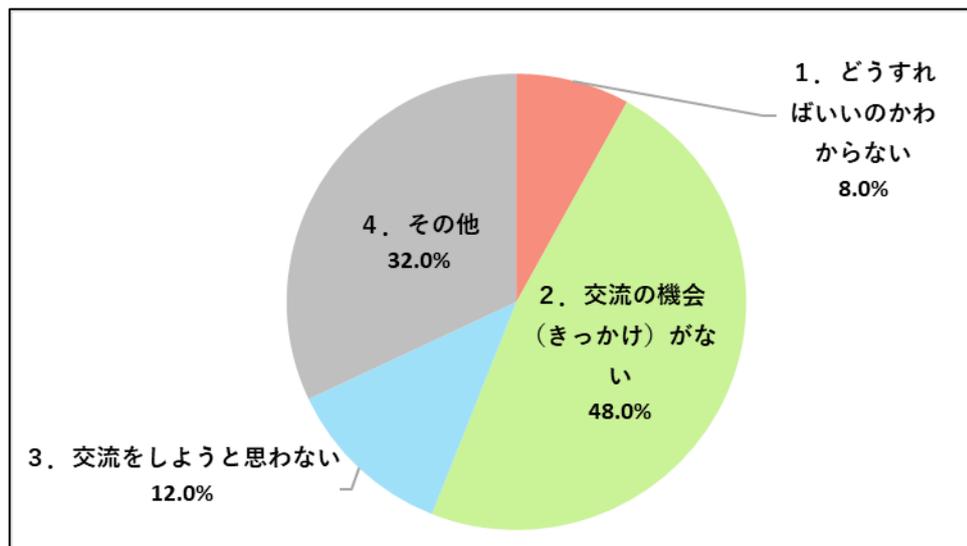
週1(施設展示)、年1(花展)／2年に1回／3年に1度くらい(不定期)／4年に1回／数年に1回／出雲ダンスフェス以外にお祭りイベントなどで集まる／各個人で研究が行われていることを考えると、他地域の研究会との交流回数は、計り知れない数と思う

問 16 「問 14」で『2. ない』と回答された方にお聞きします。

同じ分野の他団体と交流がない理由は何ですか。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 1. どうすればいいのかわからない | 3. 交流をしようと思わない |
| 2. 交流の機会(きっかけ)がない | 4. その他 |

()



「4. その他」の回答

私たちの会員組織は年1回の発表会を旨に活動をしているから調整が困難／個別に交流しているかもしれないが、連盟としては交流の場を設けていない／交流しようと思っているが、団体が少ないことや、遠隔地で共同出品が難しい／今後は交流に活路はあると思うので計画をしている／以前は時間があつたが、なかなか時間がとれない／交通費の問題／県内に同じような団体がない

「5. その他」の回答

文化協会を通しての活動／講座の共催／多伎町文化祭(年1回)での交流など／合唱団からの
舞台監督等

《問 18 の具体的な記入》

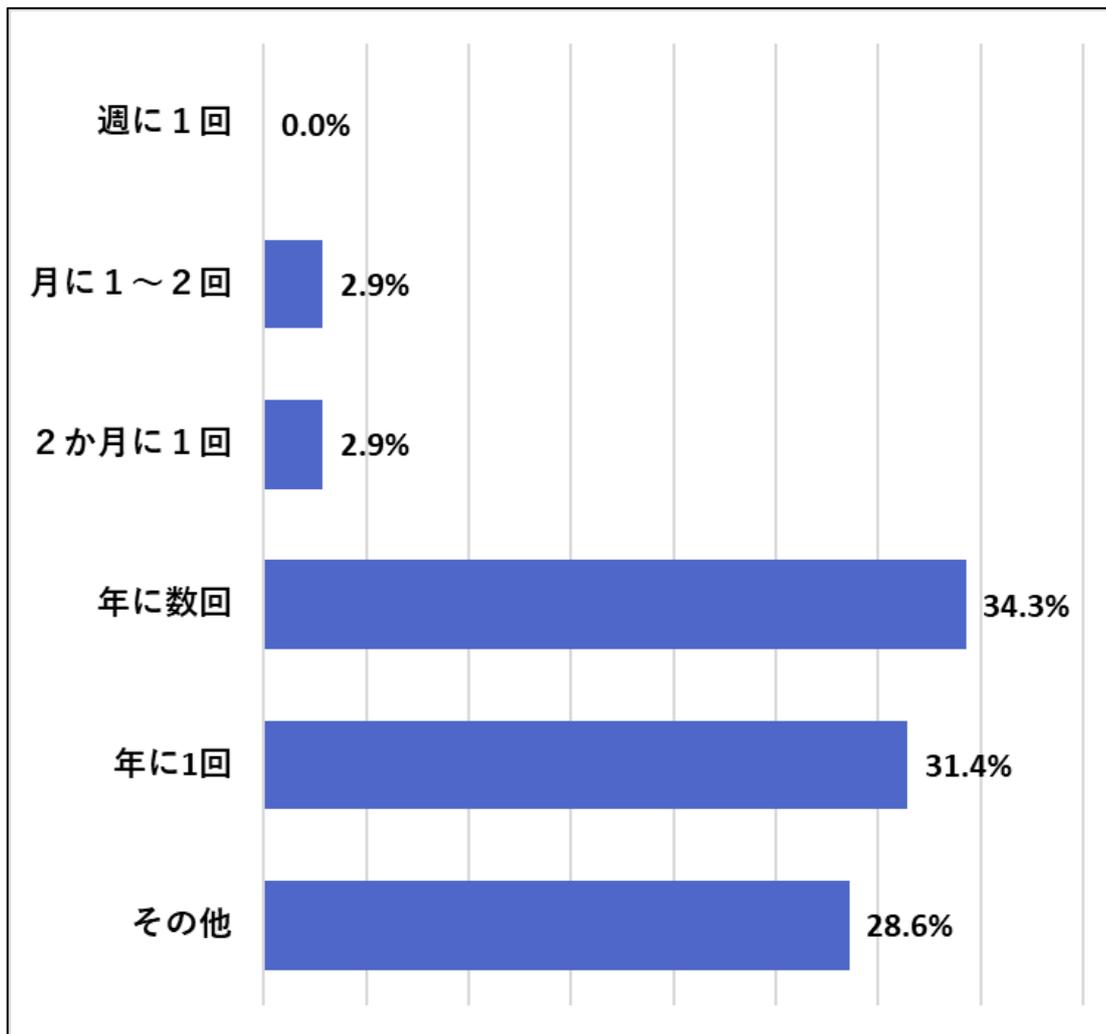
2. 合同の発表会や展示会など	
日本舞踊楽以外の邦楽(箏曲等)や洋楽とのコラボ	
合同発表会(安来節、五本松節、出雲追分)	
斐川文化祭に参加することで、他の活動を拝見。	
施設慰問会場にて、マジックショー、民踊、ダンス	
多伎町内の踊り・銭太鼓グループと大正琴とで発表会を行う。	
斐川文化協会の発表会	
出雲市消費者問題研究協議会、斐川文化協会との共催	
芸能人のステージでの演奏、余芸大会等での演奏	
洋楽器演奏の方と合奏をしています。主に文化祭のときです。	
ビッグハート出雲での「音と手仕事展」参加	
創作ダンスとのセッションなど	
出雲市文化団体連合会主催の「出雲神在月市民芸術文化の祭典」への出演。佐田町文化協会主催の「スサノオの里芸能大会」「スサノオの里こども芸能大会」「スサノオの里神楽大会」への出演	
アポロ・・・江角さんのグループと合同発表会も行いました。	

3. 情報の共有	
合同発表会の際に、募集(会員)チラシ作成配布	

5. その他	
平田文化協会に加盟	
斐川文化協会加盟団体	

(問 18 続き)その頻度はどのくらいですか。

- | | |
|-----------|---------|
| 1. 週に1回 | 4. 年に数回 |
| 2. 月に1～2回 | 5. 年に1回 |
| 3. 2か月に1回 | 6. その他 |
| | () |



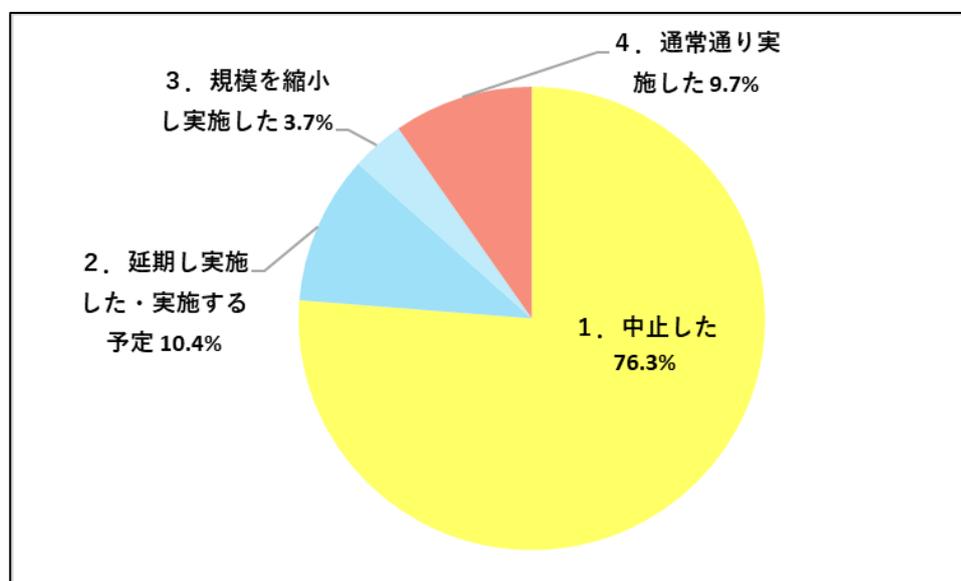
「6. その他」の回答

今年が第1回／2年に1回／数年に1回

5. 新型コロナウイルス感染症の影響について

問 20 新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度に予定していた主催の公演、展示などを中止や延期されましたか。

- | | |
|-------------------|------|
| 1. 中止した | (件) |
| 2. 延期し実施した・実施する予定 | (件) |
| 3. 規模を縮小し実施した | (件) |
| 4. 通常通り実施した | (件) |
| 5. その他() | |



「5. その他」の回答

発表会、総会、懇親会など全て中止／予定が組めなかった／本年度出演予定であるが、会で未協議／作品展を県立美術展で実施したがコロナ過で入場者大幅減／作歌は継続、詠草集は作成し配布、先生の添削指導のみ

◆問 20(コロナによる中止等件数)の集計結果について

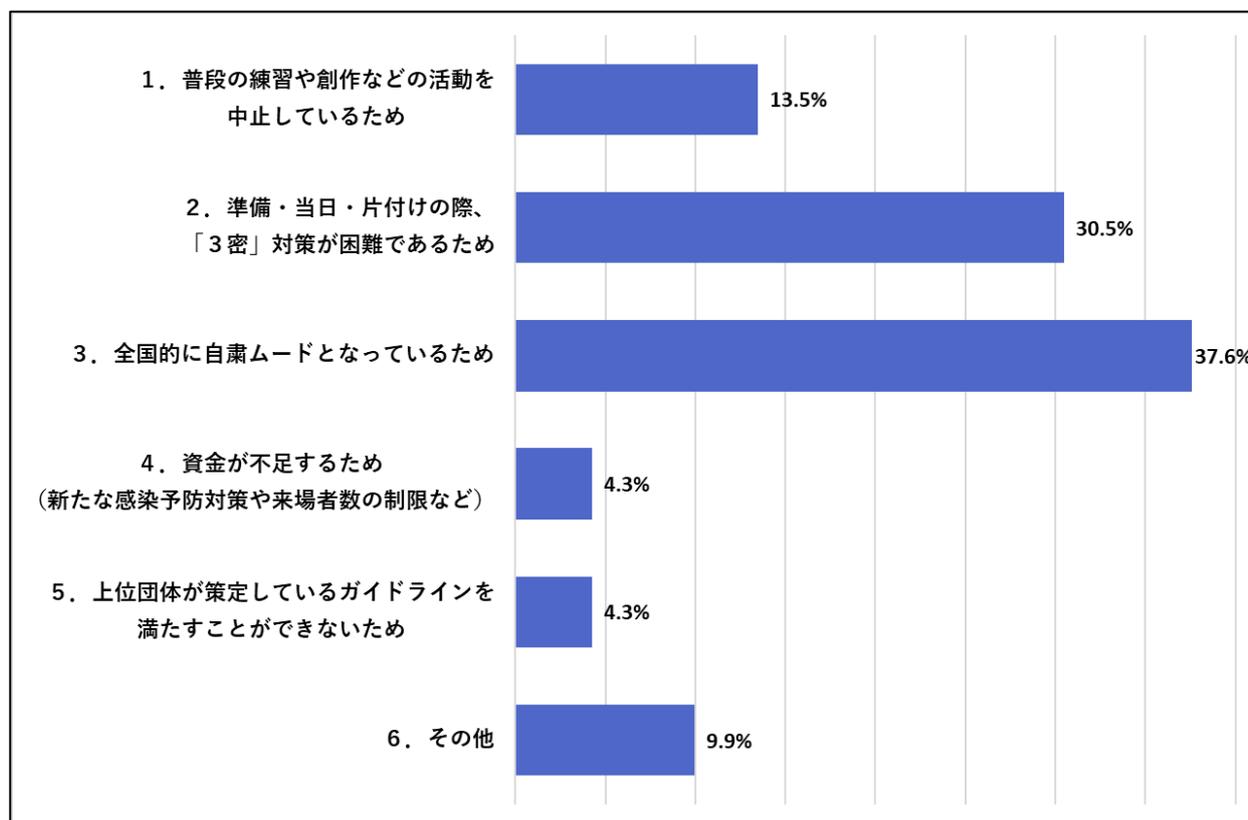
コロナによる公演や展示について、「1. 中止した」「2. 延期し実施」「3. 規模縮小し実施」の割合が全体の90%以上を占める。

そういった中で、「4. 通常通り実施した」団体が全体の 9.7%を占め、その団体の分野をみると「短歌」「俳句」「川柳」「書道」「写真」「洋画」「日本画」「陶芸」「音楽鑑賞」「民謡」「菊花」「しめ縄作り」であった。そのうち 70%が会員数 50 人以下の団体であった。

音楽などの公演事業は、3密になりやすく実施が難しいが、個人での創作活動を行う小規模団体による展示系事業は、影響が比較的少なかったものと考えられる。

問 21 「問 20」で『1. 中止した・2. 延期し実施した・実施する予定・3. 規模を縮小し実施した』と回答された方にお聞きします。どのような理由で中止、延期、規模縮小されましたか。(複数回答可)

1. 普段の練習や創作などの活動を中止しているため
2. 準備・当日・片付けの際、「3密」対策が困難であるため
3. 全国的に自粛ムードとなっているため
4. 資金が不足するため(新たな感染予防対策や来場者数の制限など)
5. 上位団体が策定しているガイドラインを満たすことができないため
6. その他()

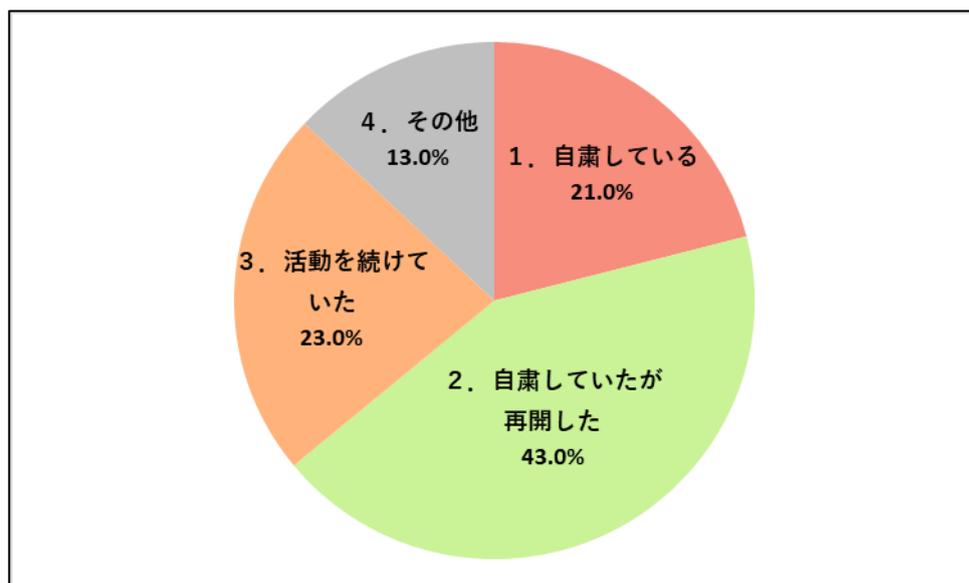


「6. その他」の回答

大会の中止、医療従事者が多く在団しているため／海外への渡航禁止等／出演依頼者がキャンセルの申し出のため／緊急事態宣言がされ自粛の要請があったため／感染対策のため／ホールの収容人数の制限／施設の外出禁止、コロナ感染者の発生／高齢者が多いため／稽古・練習は変わらないが施設からの演芸依頼が中止／会場が使用できなくなった／イベントの中止や、訪問ができなかった／団員の中にも活動自粛している者がいるため

問 22 新型コロナウイルス感染症の影響により、普段の練習や創作などの活動はどのような状況ですか。

1. 自粛している
2. 自粛していたが再開した
3. 活動を続けていた
4. その他()



「4. その他」の回答

自粛したり再開したりの繰り返し／普段の教室毎の練習は少人数の為継続。多人数での発表は、自粛と時間差発表での密回避開催／会合は中止しているが、作歌は継続／約半年間の休講措置が多い／同好会は再開した。大会は延期／自粛している:2グループ 自粛していたが再開した:1グループ／菊作品の栽培活動は、次年度の苗を確保するため、会員各自続けておられた／集まる句会はやめて、誌上大会を開催

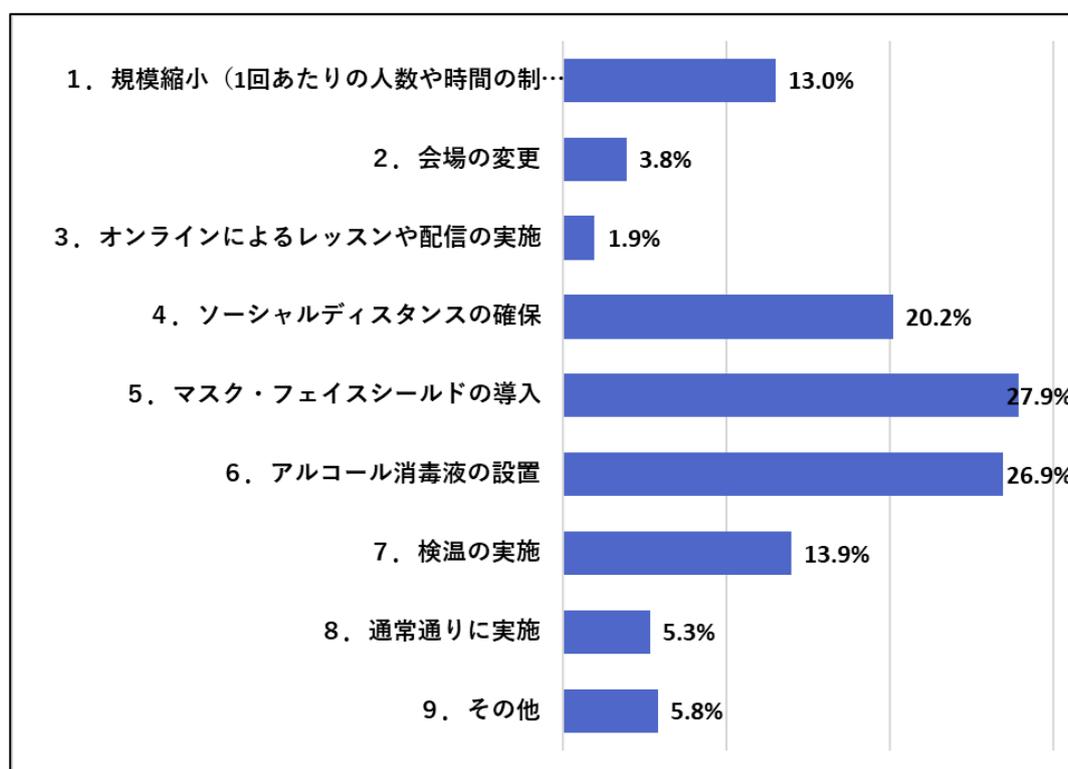
◆問 22(新型コロナの影響による普段の練習や創作)の集計結果について

コロナの影響による普段の活動について、全体の66%の団体が「2. 自粛していたが再開した」「3. 活動を続けていた」という結果となった。

合唱や吹奏楽、和太鼓など音楽系の団体や、会員が50人以上の中～大規模団体も活動を再開したと回答しており、公演や展示の機会はまだ少ないものの、通常練習などの活動から再開し、準備を進めている様子が見えてくる。

問 23 現在活動をしている団体、今後再開予定の団体にお聞きします。普段の練習や創作などの活動を行うため何か対策されましたか。(複数回答可)

1. 規模縮小(1回あたりの人数や時間の制限など)
2. 会場の変更
3. オンラインによるレッスンや配信の実施
4. ソーシャルディスタンスの確保
5. マスク・フェイスシールドの導入
6. アルコール消毒液の設置
7. 検温の実施
8. 通常通りに実施
9. その他()



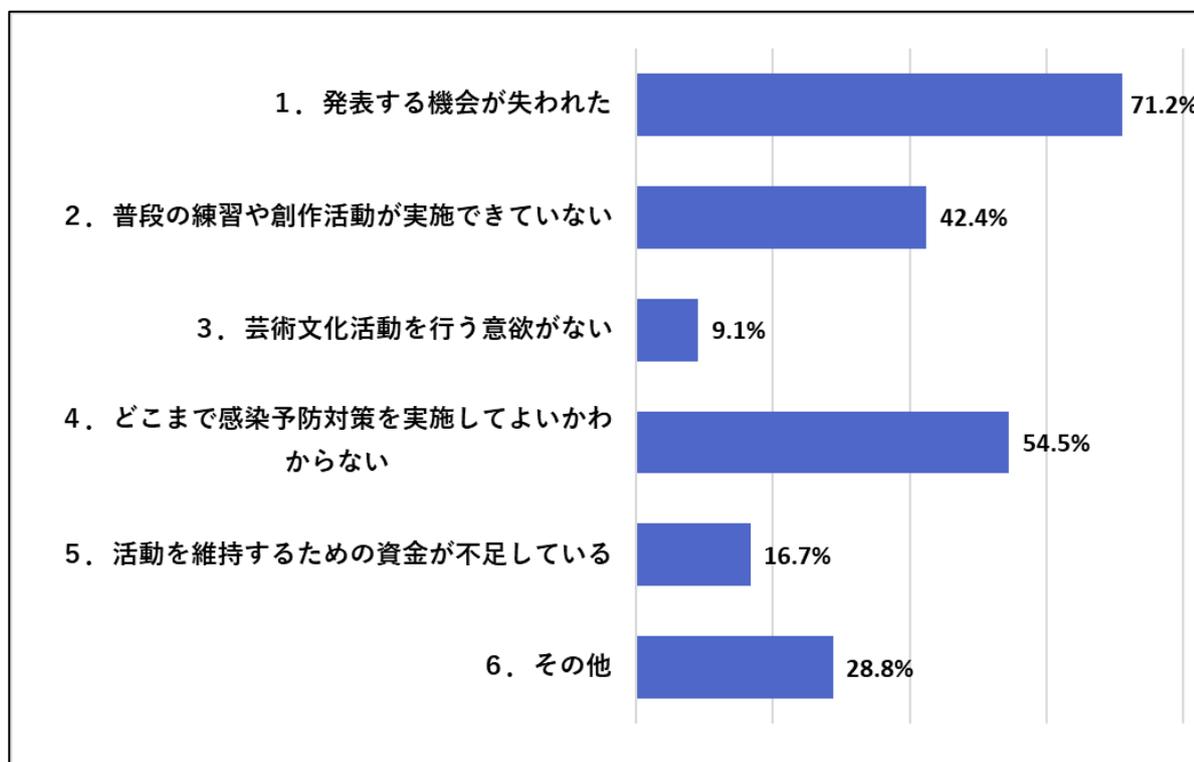
「9. その他」の回答

少数のサロンの会合であるので、一般的なコロナ対策を行って実施／現在のやり方で続行／個人練習のため何も対策していない／出来る範囲で実施するようにしている／換気の実施／演出の変更／展示物を縮小して実施／人数が少ない(4～5名)のでマスクと消毒のみ／換気、空気清浄の実施。簡易手洗い場の設置／イベント時に来場者連絡先の記入／全日本合唱連盟のガイドラインを遵守／選者・協取りの前に透明な仕切り板を設置

問 24 現状のコロナ禍において、不安に思っていること、困っていることはありますか。

(複数回答可)

1. 発表する機会が失われた
2. 普段の練習や創作活動が実施できていない
3. 芸術文化活動を行う意欲がない
4. どこまで感染予防対策を実施してよいかわからない
5. 活動を維持するための資金が不足している
6. その他()



「6. その他」の回答

高齢者が多い故なにかと・・・／集って各自の意見交換ができないのは淋しい／今後の状況によって発表する機会が失われるのではないかと／通常の状態になってほしい／高齢化による会員減少が進む中、1年間の活動停止により、更に参加意欲の低下が懸念される／来年3月予定の会員展が実施可能か不安／活動の目途がたたない／定会員以外に、とび入り参加を可としているが、この状況ではそういった人が来られるか不明／発表の場はなくなったが、私たちの会は活字文化がある限り、知っていただくことは出来ると思っている／もし感染者が出たら・・・という不安／クラスター発生に対する不安／急激な会員数減少により資金不足、参加率の低下／予算は商店等からの寄付にたよっていますが、コロナ禍の影響を受けている状況の中で期待できない／新入会がない。発表がないのでモチベーションの維持が難しい／特になし／意識の改革をするのみ

6. その他

問 25 今後の活動や現在の課題について、自由にご記入ください。

	イメージなど
1	本アンケートは、音楽やスポーツ団体を主眼におかれているので、当会などは例外と思って記入しました。派手な活動団体だけではなく、地味な団体もあることを…。
2	コロナ禍において、生き方や考え方が問われています。次世代を担う老若男女の暮らし方の中に文化の果たす役割はまだまだ必要とされ、人間力育成に、0歳から天寿まで一本筋の源になると信じます。 社会、地域、家族、個人が新しい価値の創造の時、議論する、話し合いをする数だけ、ステップアップしていくのではないのでしょうか？私たちの組織の中にも活かす努力をいたします。
3	市内には各々特徴のある文化活動があり、各地域の文化協会等を通して受け継がれています。人口並びに会員の減少によって、財政的にも後継者の育成などが難しくなっていると思います。大切な芸術文化をつないでいけるよう、市としてご支援を今後共々よろしくお願い致します。また、子ども達にとっては都会に比べて本物文化に触れる機会が少ないのではないかと思いますので、是非そのような活動が続いていく事を希望します。
4	今年で創団 63 年目となります。そろそろ出雲”市”の”一部”と考えていただけると幸いです。
5	思うように練習はできないが、1～2回の練習を見ていると子どもたちのやりたいという気持ちがにじみ出ていた。聞いていて涙が出た。 少ない会員の中で地域に見守られながら、活動してこられたことをすごく感謝している姿が練習風景ににじみ出ている。地域はどんな時でも大切に、子どもたちと一緒に活動していきたい。コロナ禍でもできる方法を考えてください。
6	文化の活動は、人を造るものと思っています。生涯教育活動には大切なことと思っています。幼少の頃から高い文化に触れることは年老いてからもどこか心の片隅に残り、一代では築かれぬ文化の伝承を支える力になると信じています。簡単に「芸術文化の都出雲」ということは、とてもやさしいことですが、多くの人達が長年築いていくことができる下地を行政が担ってほしいと思っています。 目にすぐ映るスポーツ活動は、取り上げられやすいですが、結果が気づきにくい文化活動は得てして後に遅れがちのように思われ、とても残念に思っています。 小・中学生が関心を示しやすい方向を、示していただきたいものと思います。将来の出雲を担う子どもたちに「文化の香り高き出雲」を、文化を通じて「誇り高き人格」を培えるような方向の行政をお願いしたいものです。
7	人生 100 年時代を迎え、一人一人が自分を大切に見つめたら少しでも健康寿命を延ばしていくことが大変重要になって参りました。何よりも「引きこもり」をなくして、人と人との交流を持ち、より楽しい人生を送ることが幸せの近道だと思います。
8	最近若い人達の芸術文化に対する様々な事がうすれているように見られますので、このアンケートを取り、どのような結果が出たのか、また私達にも教えて頂きたいと思います。ぜひ「芸術文化の都出雲」の発展を祈っています。
9	小中学生、高校生の文化レベルが大変高いことは市の誇りであり、強みであると思います。卒業後、継続して活動をしたいという学生たちの意欲を受け止め、その水準を保つことで市の文化振興もより充実すると思います。卒業後、進学などでいったん離れても帰ってきたいという意欲の一つ

	になるよう、一般の団体の育成などにも力をいれることも必要と思いますし、そのような団体になれるよう、我々も努力していきたいと思います。
10	出雲市周辺に多く現存する伝統芸能や地域資源を活用した創作芸能などが人口減少により存続が危ぶまれている今日、後継者対策へのてこ入れが急務であり、行政による伝統芸能や和 문화への熱意ある支援が必要である。
11	<p>写真人口は全国的には若年層から高齢者まで幅広く、年々増えていると言われているが、我々が追い求めている作品として本格的にプリントして鑑賞する文化は廃れてきている。インスタなどSNSで画像の共有を手早く、広く行う文化が隆盛を極めている。スマホ性能も向上し、また編集ソフトも進化したことで単に美しく、人目を引くだけの写真作りは誰でも簡単にできる時代となっている。写真人口が全体的に増えたことは喜ばしいことだが、求められる価値観は共通する部分も多少はあるが根本的に異ってきている。とりわけプリントして鑑賞する文化に対しては、面倒だ、費用がかかる、本格的な機材が必要、審査員の特定の価値観に左右される。。。などの理由で関心が薄れて来ていると思われる。</p> <p>これらは現代の写真クラブが共通してもっている悩み、課題だと思う。時代の大きな流れがそうだから仕方ない部分もあるが、変化は非常に急激である。突破口はなかなか見出せないが、若者が関心も持てる活動内容にしていくための工夫を今すぐ打っていく必要があると感じている。出雲市側からのアドバイスや協力が得られればありがたいです。</p>

会員について	
1	<p>近年の少子高齢化と人口減少による観客の減少と固定客や劇団員の高齢化が進み、演者、スタッフの後継者対策と新規顧客の開拓が課題となった。そこで、専門家をはじめ現存の指導者や地域の協力を得て、長期間にわたり、30代の団員を始めとする青少年を対象に担い手の育成に乗り出している。</p> <p>近年、小学生を対象に出雲歌舞伎を体験する「こども歌舞伎」に取り組み、学習発表会や当劇団の定期公演で発表を行い、演者、観客共に好評を得ている。今後は小学生だけでなく歌舞伎に興味を持つ一般の市民にも体験してもらおうことができると考えている。</p>
2	高齢化による会員の減少に歯止めをかけないと存続が困難になる為、若い後継者育成が重要である。
3	高齢化に伴い、会場(現在はひかわ図書館)までの交通手段が困難。(高齢化と交通手段がネックとなり参加者が増えない)生活バスの運行を切に望みます。
4	日本画は、洋画や水彩画などに比べ制作に時間がかかり、また絵具などの画材も多種多様で高額のため、若い人には負担が大きいかもしれません。そのため、なかなか若い人の加入が望めず、現在の会員も徐々に高齢となり、会員数が減少しつつあります。積極的に作品展を実施し、日本画を身近なものに感じ、ひとりでも多くの仲間が増えることを願っています。
5	一番の問題点は、会員の高齢化のため会員の減少だと思うので、もっと魅力的な句会にすることが課題。若人達の会員を増やすためには必須条件。
6	このパッチワークグループの活動は、30年ちょっと続いています。その間、人の入れ替えはありますが、比較的長く続けている人が多いです。しかし次第に高齢化しています。若い人達で針を持つ人は少ないと思いますし、仕事をしている人達はなかなか作製する時間がないと思います。一針一針縫わなくては作品が完成しないので、とても時間がかかります。先生が、このような教室を出

	<p>雲・松江・安来・米子など、色々な地域でもっておられるので、それぞれの場所と合同での展示会が何年かに1度あり、お互い作品を見せてもらい、刺激をもらっています。</p> <p>合同の展示会を本当は、昨年の秋、予定されていましたが、コロナのため、5月に延期になっています。予定通り実施できればいいのですが。展示会を見に来た人でパッチワークをやってみたくて興味をもってもらえたら嬉しいです。</p>
7	<p>少子化によって子ども神楽をするにあたり、子どもを集めるのに苦労することも多い。我々60代の世代から次世代への笛や太鼓(奏楽)の継承、舞子の指導者がなかなか育たない。</p>
8	<p>各地区のお世話をいただいている方の高齢化が進み、その後継者がいない。会員の減少。会員の会費によって音楽祭等を開催しているが、将来的には一抹の不安材料である。</p>
9	<p>会員のうち50歳以上が約6割となり、年々高齢化が進んでいる。若者の加入もあり、うれしいことだが、コロナの影響で活動自粛が続くと今後にも関わる。活動を活発にして、新会員を増やし、高齢化を止めていきたい。</p> <p>神楽指導の後継者を育てるのが難しく、神楽の演目をビデオに収め、月1回集まる日を決めて、指導者育成をめざしているが、今後どのように継続していくかが課題である。小学生の頃に神楽を経験していると大人になってからも神楽に関わりたいという意欲につながるので、子ども神楽の実践を続けていきたい。</p>
10	<p>門弟の高齢化や若者の伝統文化離れによる華道人口の減少など大きな課題もあります。いけばなを次世代にどう引き継いでいくのか、みんなで考えていきたいと思えます。</p>
11	<p>会員不足のため、従来のような展示は不可能と思っている。規模を大きく縮小して実施せざるを得ないと考えています。前年までは、出雲市の補助金10万が大きな支援となっていました。規模縮小となると、補助金は遠慮しなければと考えています。</p>
12	<p>邦楽、特に民謡に取り組む人が非常に少なく、会員の確保すらままならず大変である。ただ、諦めることなく、各方面からの情報を集めて、又チラシなど広報にも努めて、一人でも二人でも会員を増すべき努力するばかりです。</p>
13	<p>創作の勉強会を開いて、童話や絵本を創る楽しさをいろいろな人に広めていきたい。童話や絵本の紹介をすることで、読む楽しさをもっと知っていただきたい。童話や絵本は子どもだけのものではなく、大人が親しむことで創る楽しさや空想の世界で遊ぶ楽しさを子どもたちに伝えていければよいと考える。</p> <p>現在、人が集まることのむずかしさの中で、どう活動すべきかということが課題である。</p>
14	<p>会員が徐々に高齢化し、若い世代の会員があまり増えない状況なので、数年後は会員数もだいぶ減るのではないかと、心配しています。新しい会員を増やすよう、広報にも力を入れなくてはならないのでは、と思っています。</p>
15	<p>各部門の指導者自身の高齢化が顕著で、年2回の展覧会出品をはじめ、本協会会務の遂行に困難を感じるようになっていくのが現状である。が、会員間に、発表の場・交流の場としての展覧会開催を継続してもらいたいとの願いは強い。そこで、組織再編成を図ろうと考えているが、会員の年齢構成からみて、後継を委ねる次世代会員数は十分ではなく、人材確保には相当の困難が予想される。新年度には、この問題を優先して相談の機会を確保する考えである。</p>
16	<p>会員の高齢化により、また若い会員の確保の難しく、これから先の精算に不安があります。コロナにより祭りの中止等で草履の注文が減り、作業の減退が不安である。</p>

	<p>会員の高齢化で運営上の問題があります。役員(会のまとめ役)のなり手がなく、役員になるなら脱退したいと言うような人もある反面、誰か世話してくれる人があれば「参加はしたい」と思われる会でもあり、出席率は大変良いです。絵手紙の良さ、楽しさを皆様にPRしながら頑張りたい。</p>
--	---

施設	
1	<p>コロナ渦の中で練習を含めた活動を自粛していましたが最近になり練習を再開しました。しかし医療従事者、介護関係の職についているものは参加できない状況が続いておりそれに伴い団費の徴収も停止しております。</p> <p>活動費の中でも大きな割合を占める学校施設利用料の減免を期待することは難しいのでしょうか？</p> <p>当団は団員に学生はいませんので減免基準を満たしてはいませんが、学生は学校での活動を優先させるべきであるという信念に基づくものです。当団は小学校、中学校と一体となり地域の音楽文化に貢献しています。しかし現状では今後の運営は大変厳しく存続すら危うい状況で有ることを理解頂きたいと思います。子どもたちが成長した先のその受け皿を残すことを行政にも切に希望いたします。</p>
2	<p>会場使用料が数年前より高騰しており、団員から徴収する金額が高くなる可能性が今後発生しそうです。活動の幅を狭めないためにも、使用料の減免や安価にさせていただくなど対応をしていただきたい。</p>
3	<p>今後とも市の芸術文化の振興に寄与したいと思うが、集客効率において、展示部門団体の同時開催が有効と思われる。総合して実施出来る施設がないのが問題である。</p>
4	<p>「出雲市美術展」などの作品展示施設がもっと出雲市の中心部にあってほしいです。出雲市民会館で年末の余芸大会などを実施しておられますが、出雲市の文化の最大イベントのひとつである「出雲総合芸術文化祭」の展示発表も市民会館でやったらどうでしょうか。どこかの一室の壁にレールをつけ、ボードを運べば簡単に展示スペースが出来るのではないのでしょうか。絵画、書道などを見る機会を増やし、毎年楽しみにしているたくさんのお客さんが来られるようになってほしいです。</p>
5	<p>活動場所の『平田ふれんどりーハウス』の使用料が有料になり、年間20万ほどかかるようになりました。コロナ禍においてはこの会場使用料はとてつ捻出が難しく、練習会場変更を予定しています。しかし、グランドピアノのある施設ですので、なるべく利用したいと思っています。</p>
6	<p>活動の一番の課題は普段の活動場所の確保です。演奏会をする場合は助成金などを活用できませんが、せっかく音響等で素晴らしいホールがたくさんあるにも関わらず、普段使いするにはアマチュア団体には厳しい金額設定の施設が多く感じます。財政難の折、厳しいことは存じていますが、稼働率を上げるためにも、利用料金を一律ではなくその施設の規模や耐用年数にあった金額設定にしてはどうかと考えます。どうか実際に活動している団体の意見を丁寧に集め、検討していただくことを望みます。普段の活動が安心して行えることで、さらなる文化振興に寄与するものと考えます。</p>
7	<p>神楽の練習、披露は、多伎町勤労者体育センターで行っているがそれなりに使用料がかかるので更なる減免をお願いしたい。</p>

8	人口も急増し続けており、これまでも全国的に活躍しているグループ等を有している斐川地域の舞台施設の充実(斐川文化会館の建て替え問題)必ずしもこれまでの舞台の作り方でなくても、工夫次第で定額に出来ると思う。舞台人、特に裏方等地方の専門家に意見をきいてほしい。何よりこれは文化スポーツ課の担当する問題であるはず。
9	斐川文化会館については、斐川地域の芸術文化活動団体の重要な発表の場として、また斐川文化協会の事務局本部として同活動の発信・支援拠点としての役割を担ってきた経緯があります。私たちの団体は、発表の場として年4回程度を利用して来ており貴重な施設として認識しています。 同会館は老朽化により、現在建替えについて市の方で検討中です。 上記の様に斐川地域だけでなく、出雲市民の誰でもが芸術文化活動の発表の場として利用して来た経緯を充分にご理解いただき、少なくとも現状と同程度の市民自身の発表の場として、また市内、市外からの芸術文化の鑑賞施設として住民が利用できるように検討頂きますよう是非お願いしたく考えます。

コロナ関連	
1	飲食を伴いますので多人数での茶会ができません。
2	第26回市美展、他団体の作品展開催時、消毒器・電子体温計など使用させて頂きました。来場者の方々は入口で即使用され、当方としても安堵しました。別団体からマスクも寄付していただきました。
3	自分たちでできる感染予防をしっかりと発表会をすればできるとは思いますが、来場して下さる人が安心してきていただけるよう努力をしていかなければならないと思います。
4	活動を中止しているため、活動のPRや新規会員の入会をすることができない。現在は出雲弁のCDなどを作り、会員に配布したり一般に販売したりしている。
5	高齢者が多いため、感染予防をどのようにしたらいいのか困っています。
6	この1年のコロナ過で先の見えない状況が続き、会員の減少がどこまで続くか分からない。現在苦境に立たされている。会員の会費だけで運営しているので、ステージ数や例会本数を減らして対応せざるを得ない状況になると、存続自体が難しくなる。 コロナが収まって、その影響は尾を引くので、今年1年が正念場と考えている。”地域の文化の灯”を消すことのないよう会の存続をかけて残っている会員と力を合わせて頑張りたい。こういう時こそ”演劇をみる”ことで、生きる元氣と勇氣と明るい気持ちを持つことが必要だと感じる。
7	コロナで舞台とかボランティアの演奏等は当分出来ない状態です。50代の人達が月4回はつとめの関係で来られず、70代の人の方では出来ず、教本の勉強のみです。2か月に1回は人の前で演奏せねば上達もなく気にかけていますが…
8	コロナ禍により普段の活動を縮小せざるを得ない状況でしたが、出来ることを模索し、少しずつ活動を再開し始めています。色々な団体の工夫を共有する場があれば、市全体での文化の再興に向けた取組みのきっかけになるのではないかと感じています。
9	昨年は、コロナの影響で予定していた15公演がすべて中止となりました。地域芸能は必要な活動だとは思っていますが、片方で不要不急の観点からすると、優先するのは会員の仕事等を考慮することであり、そうした中で、練習を自粛したり、再開したりを繰り返しています。1年間、すべての

	<p>公演がなくなったことで、会員のモチベーションが低下している状況は否めず、今後の活動再開と共に、会員の意欲を高める仕掛け作りが重要になってくると感じています。</p>
10	<p>普段の営業やレッスンはなんとか行っているが、発表する機会がない。そのためにも第2回出雲ダンスフェスをなんとか実施したい。ジャンル年齢を問わず参加してもらいたい。</p>
11	<p>コロナ禍の終息の見通しが立たない現状の中、感染症予防対策に費用と多数の人員が必要なため、それらの確保ができるのか不安である。</p>
12	<p>新型コロナ感染予防対策については、行政機関の示すガイドラインに沿って対策を講じ、そのための予算も計上して、昨年秋に展覧会を開催した。作品搬入時間帯に混雑が予想されることから、部門別に時間差を設けて三密防止の対策をとった。が、作品搬出日、会場片付け時間帯に混雑が生じた。それは、出品者は、例年、作品搬出を兼ねて美術展鑑賞に入場する人が多く、そこがまた情報交換や交流の場になっていた結果なのである。今回は、会場使用の契約上、作品搬出時間を大きく延長して時間差を設けることができなかった。これは反省点である。今後は、会場使用時間を、長めに契約するとよいと思うが、そのために経費(使用料)負担を伴う。</p>

その他 要望	
1	約40年、書道を大切にボランティアに近い活動中です。すぐに成果がある活動ではないので、なかなか始める人が少ない。文化なので大切にしたいですが、たとえば小学校の習字の時間、書初め練習に呼んでいただきたい。
2	出雲市の芸術部門への支援が音楽部門にのみ片寄った支援となっています。同じ支援がなければ、資金不足のため周囲からの理解もなく「芸術文化の都出雲」の創造とは程遠いと心配されます。特に出雲市展(美術展)の開催にあたっては、行政よりの支援がほとんどありません。松江市展等の組織運営を参考にさせて頂きたいです。
3	市の芸術文化祭事業の成果(受賞者等)として、新聞等への発表・掲載を強く希望する。
4	各美術団体任せでは出雲地域文化の衰退につながってしまいます。市の財政によって行われる政策には限りがあると思いますが、芸術文化は行政の具体的な援助なしには衰退や先細りの一途を辿ると思われ、以下について要望します。 1 行政による活動支援(展覧会の広報・開催補助金・使用料等の減免など) 2.「ここに行けば必ず美術作品が展示してあり、鑑賞できる」という場の提供。 3.上記に併せ、これまで地域の宝として意識されてこなかった出雲にゆかりのある優れた作家の紹介や作品の展示。
5	平成 20 年に出雲市主催でスタートした出雲市民の文化祭である「出雲神在月市民芸術文化の祭典」は、2 年間出雲市民会館を主会場にうらら館、出雲文化伝承館で行われた。 平成 22 年、出雲市から旧 1 市 4 町の文化団体で構成する実行委員会を立ち上げ、市内周辺の佐田、平田、斐川、多伎、を会場として継続実施するよう依頼された。委譲する際の条件として担当者から出雲市主導による「出雲市文化協会」を設立することを約束されたが現在協会設立の兆しが見えない。 以後大社会場も加わり、平成 27 年平田会場における開催計画を予算カットにより中断したものの、令和 2 年度の新型コロナ感染予防により中止したほかは 11 回に渡り開催してきた。 行政と市民の信頼関係が損なわれぬよう文化団体関係者との話し合いの機会を設け、立ち上げへの障害を共有し、実現するよう望んでいる。